

お知らせ:次回発信日は12月11日週報(予定)

Jミルクが2025年9月30日に公表した「需給見通し(※2025年7月迄実績)」の予測値と直近の実績値(牛乳乳製品統計)をグラフ化しています。

「牛乳乳製品統計(農林水産省)」の公表に併せて、今後も毎月配信していきます。

発行:一般社団法人Jミルク生産流通グループ

【10月の統計実績】

● 生乳生産量

全国が、前年同月比▲0.3%(日均量、以下同)となり、15カ月ぶりに前年水準を下回った。地域別では、北海道が▲0.2%と全国同様に15カ月ぶりに前年水準を下回り、都府県は▲0.5%と2カ月連続で前年水準を下回った。指定団体受託乳量(速報)は、北海道(ホクレン)が10月下旬から4旬連続で前年水準を下回っているものの、10下旬の前年同旬比▲0.7%から11月下旬は同▲0.2%と減少幅は縮小している。都府県では、10月上旬から11月中旬まで5旬連続で前年水準を下回っている。

● 牛乳等生産量

牛乳の生産量は3カ月連続で前年水準割れ、前年同月比は▲2.8%と飲用等向け乳価改定が行われた8月以降、最も大きい減少率となった。牛乳以外の品目も消費は伸び悩み、成分調整牛乳は65カ月連続、加工乳は3カ月連続、乳飲料も3カ月連続で前年水準を下回った。この結果、牛乳類全体としては3カ月連続で前年水準割れとなった。発酵乳については、2カ月ぶりに前年割れに転じた。生乳の飲用等向処理量は、前年同月比▲2.4%と3カ月連続で前年水準を下回った一方、乳製品向けは+2.5%と15カ月連続で前年水準を上回った。

● 乳製品需給

脱脂粉乳は、生産量が11.4千ト、推定出回り量は11.8千トと需要量が供給量を上回った結果、在庫量は前月から0.4千ト減少したものの、月末在庫量は64.2千ト(前年同月比+35.2%)と11カ月連続で前年水準を上回った。在庫量が60千トを超えるのは、6カ月連続。バターの生産量は5.3千ト、推定出回り量が6.8千ト、輸入売渡数量が1.1千トとなり、需要量が供給量を上回った結果、在庫量は0.5千ト減少して30.9千トとなった。在庫量は14カ月連続で前年水準を上回っている。

【11月および11/24週の販売動向データ】

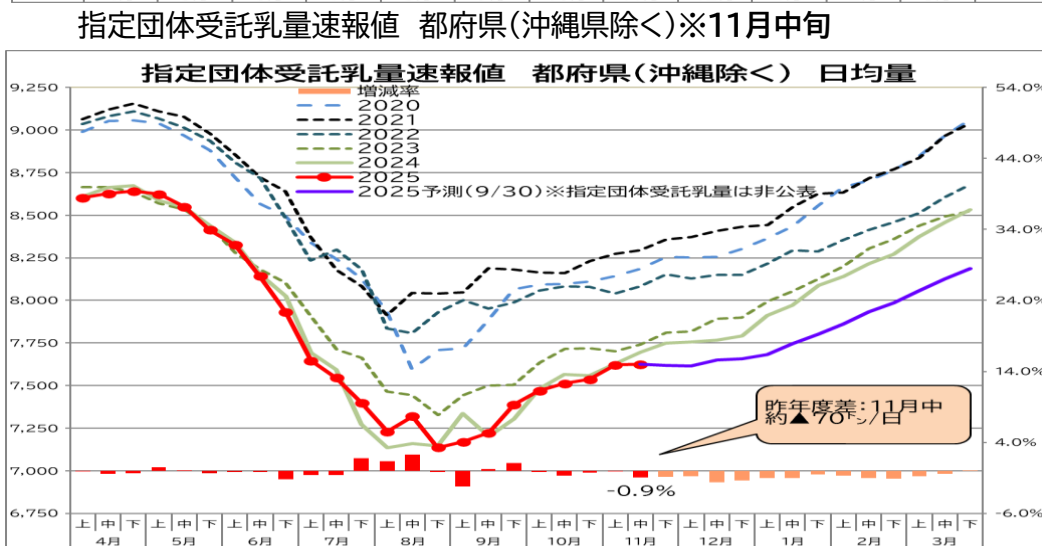
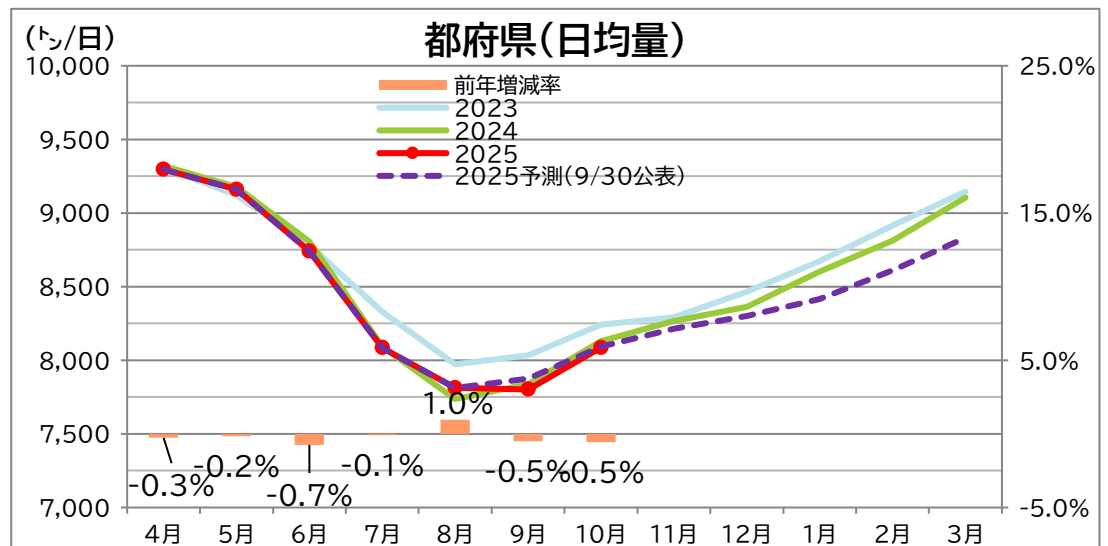
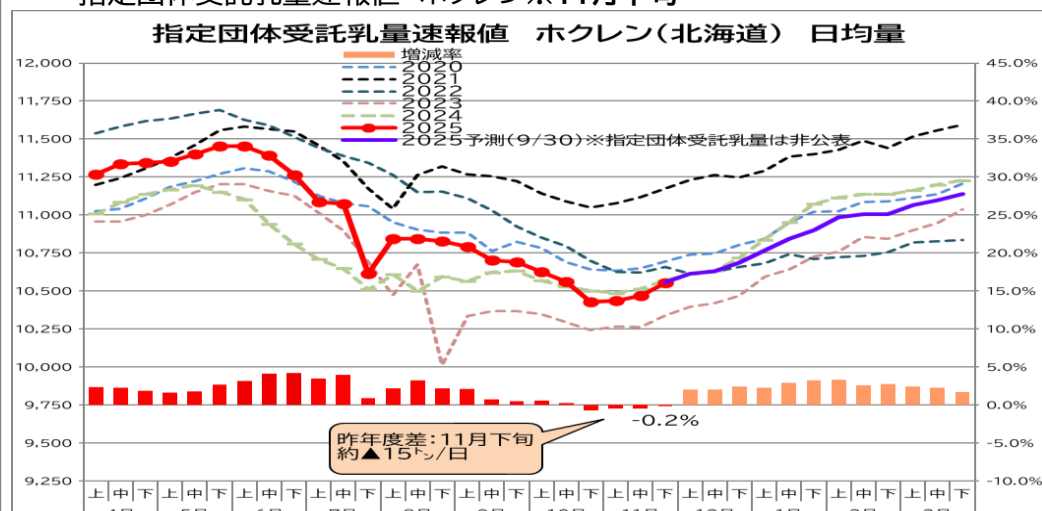
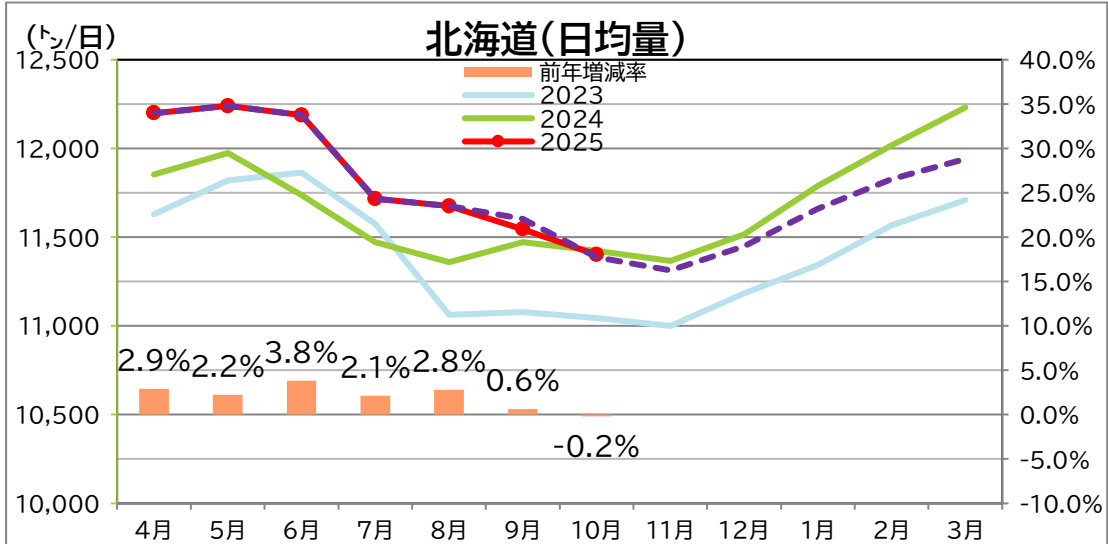
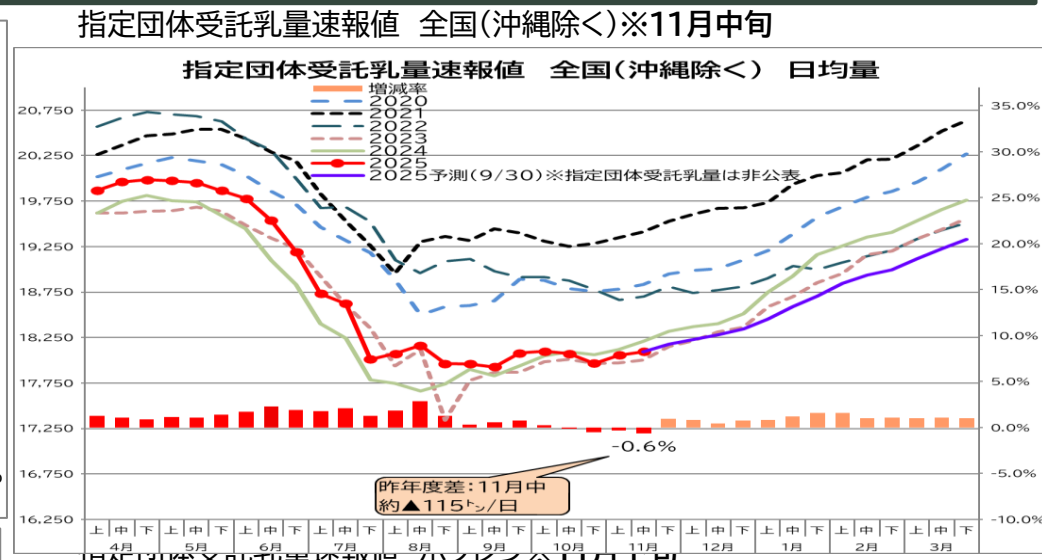
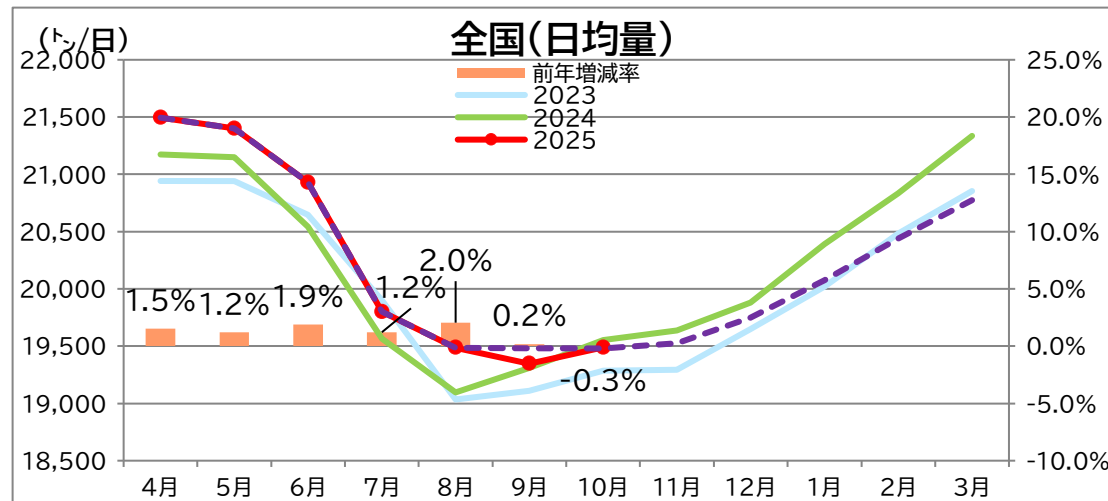
- 11月の牛乳類の販売個数は、4品目すべてで前年水準を下回ったものの、乳飲料以外の3品目は前月から減少幅が縮小した。牛乳の減少幅が縮小するのは3カ月ぶりとなる。販売業態別に見ると、ドラッグストアとスーパーの価格差がやや縮小した。ドラッグストアの販売個数は8月、9月と2カ月連続で前年水準を上回っていたが、10月以降は前年割れに転じている。直近週(11/24週)では、牛乳類トータルの販売個数が7週連続で前年割れとなったものの、減少幅は縮小した。牛乳の消費喚起をめぐっては、11月21日に鈴木憲和農相、12月2日に小野田紀美経済安全保障担当相、12月3日に茂木敏充外相と、閣僚が相次いで会見やSNSで不景気期に向けた消費拡大を呼びかけている。
- 発酵乳の11/24週の合計販売数量は、個数ベース・容量ベースともに前年水準を下回った。内訳を見ると、ドリンクタイプが3週連続、大容量タイプが7週ぶりに前年水準を上回った一方、個食タイプは36週連続で前年割れとなった。

【生乳生産量】※増減率は、日均量で算出。

(1)10月の生乳生産量は、全国604.1千ト(前年同月比99.7%)、北海道353.4千ト(同99.8%)、都府県250.7千ト(同99.5%)。

(2)9月30日に公表したJミルク予測値(全国603.9千ト、北海道353.0千ト、都府県250.9千ト)との比較は北海道はやや上振れ、都府県はやや下振れした。

(3)直近の指定団体受託乳量速報値は全国が11月中旬(最新、以下同)で同99.4%、都府県(沖縄除く)が同99.1%、北海道は11月下旬で同99.8%となった。

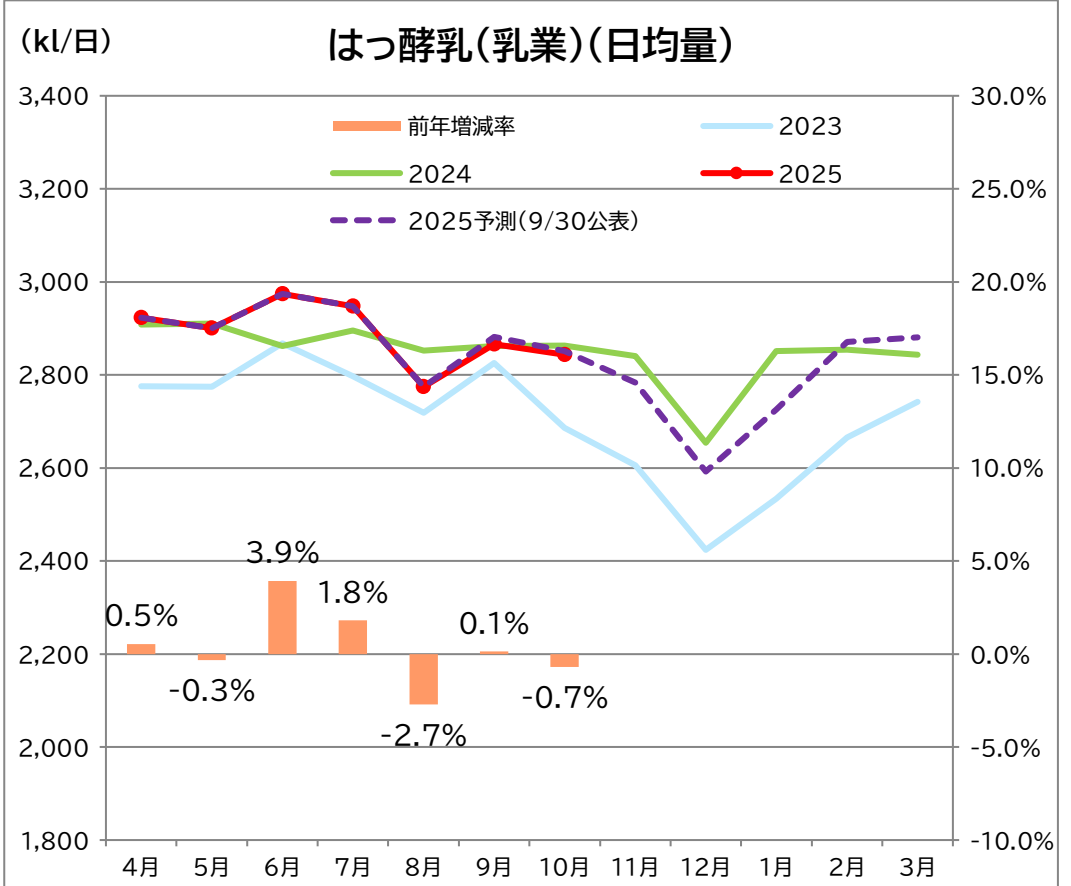
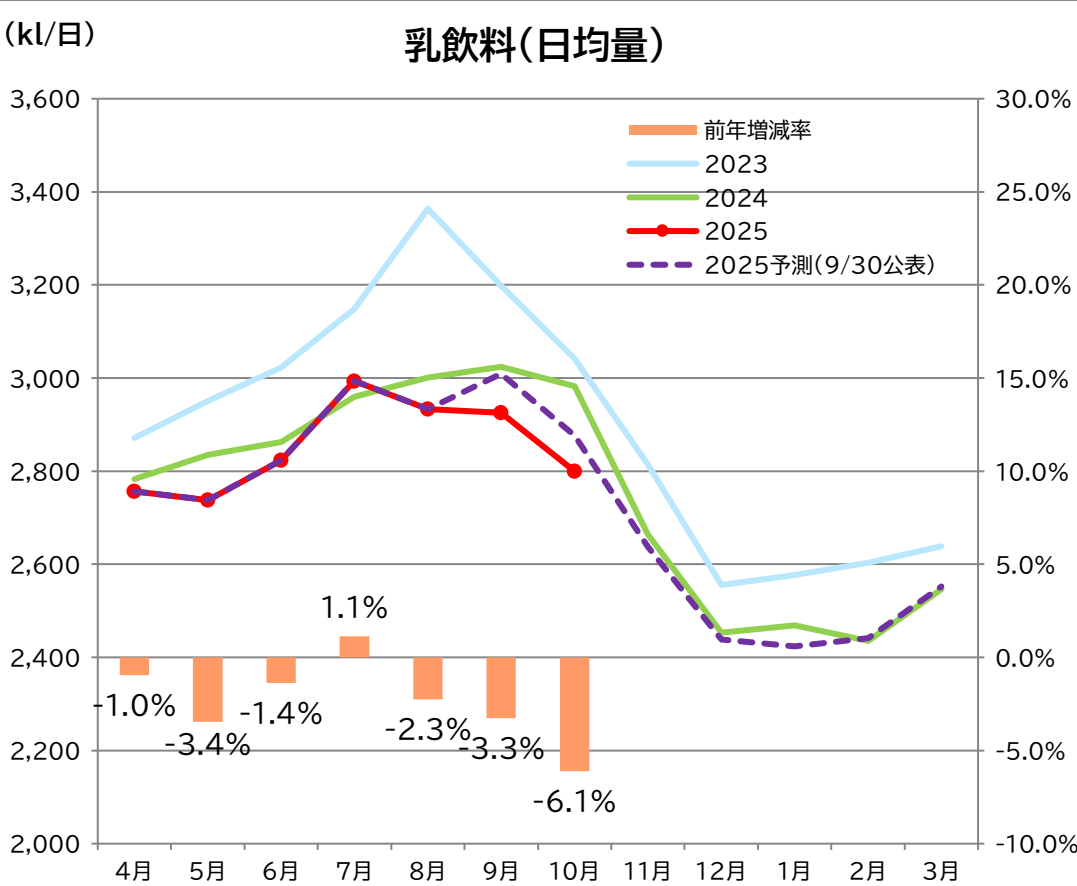
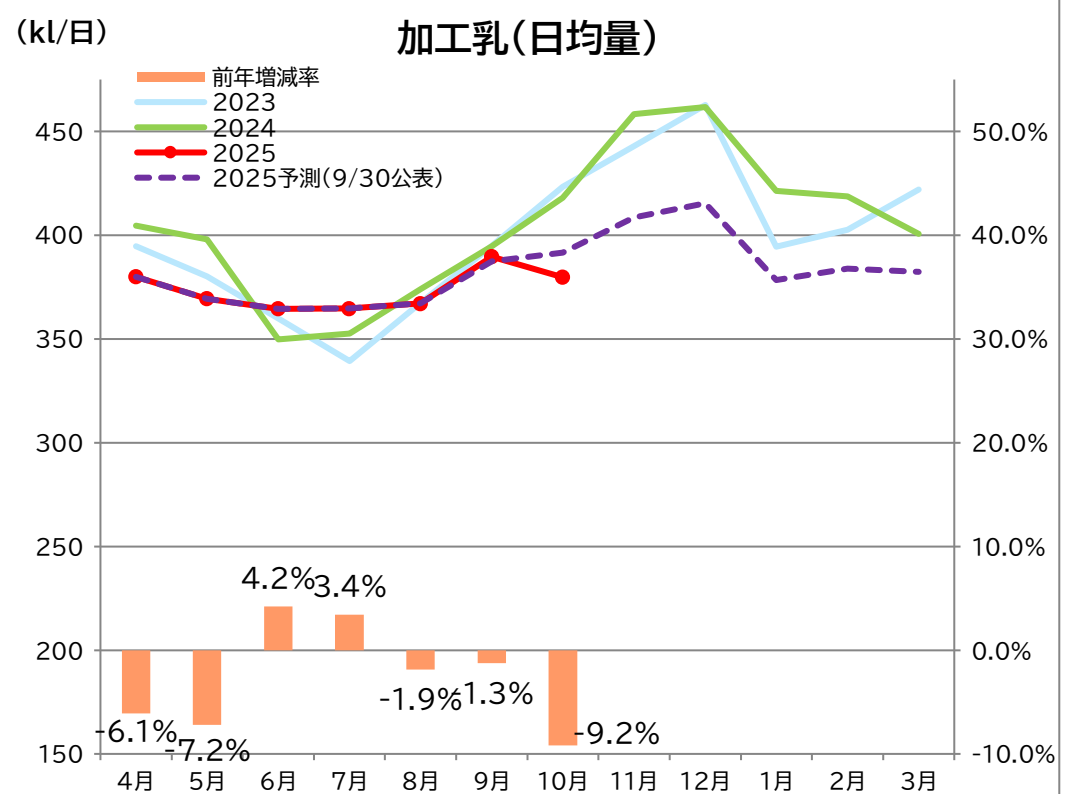
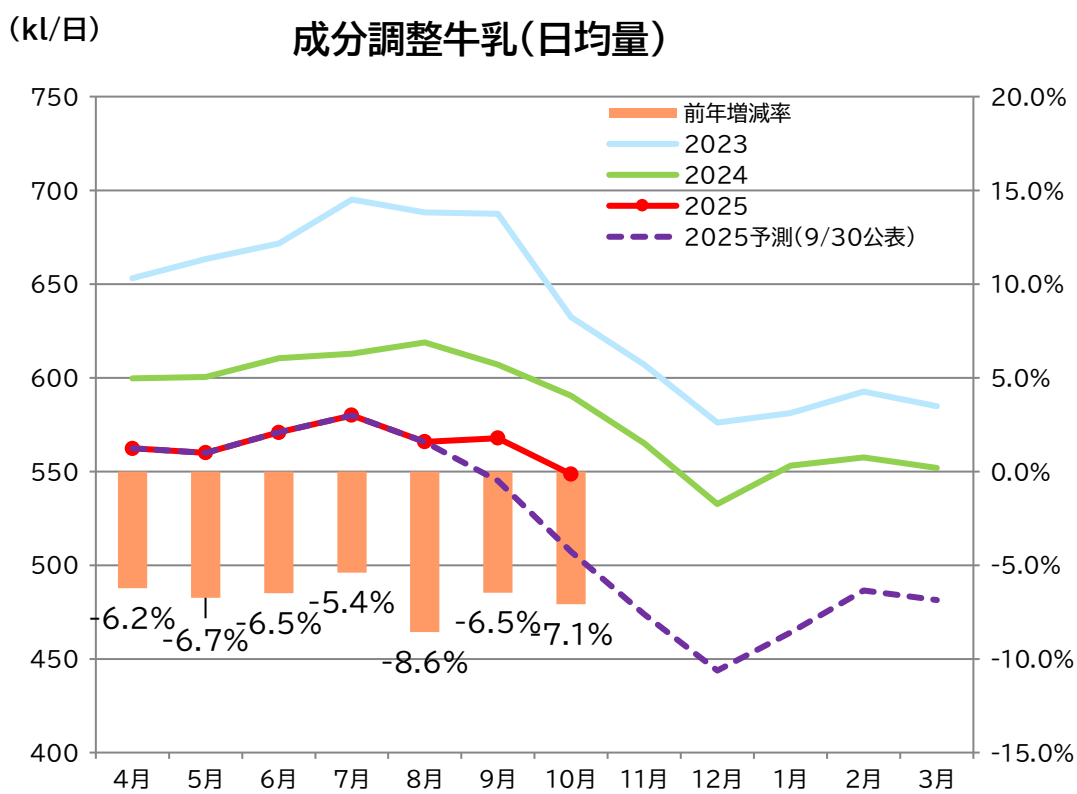
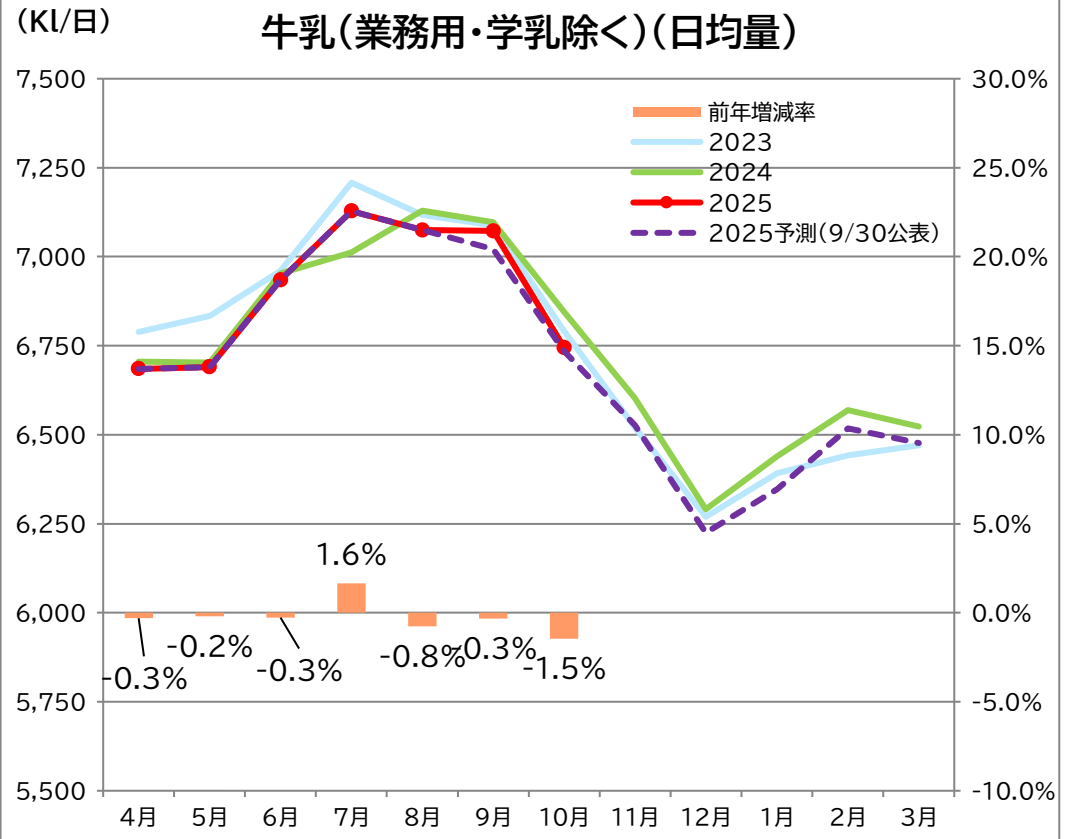
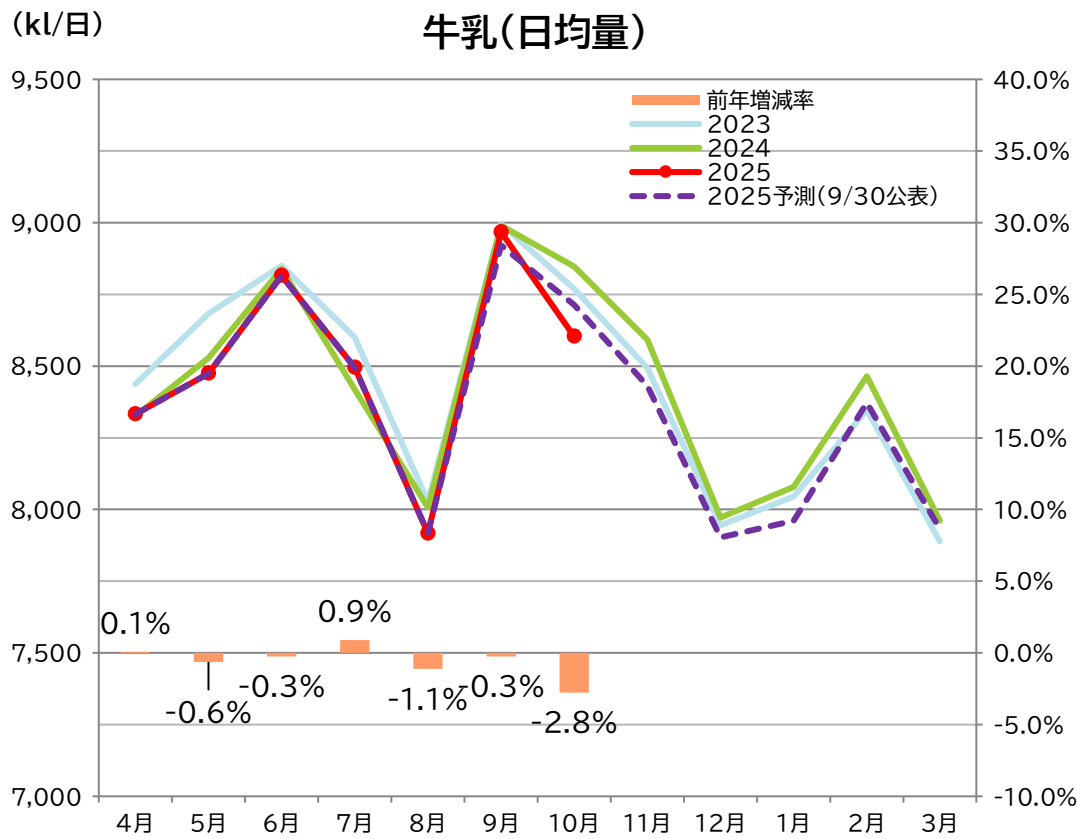


## 【牛乳等生産量】※増減率は、日均量で算出。

(1)10月の牛乳等生産量は、牛乳266.7千kl(前年同月比97.2%)、成分調整牛乳17.0千kl(同92.9%)、加工乳11.8千kl(同90.8%)、乳飲料87.0千kl(同93.9%)。牛乳類合計(牛乳・成分調整牛乳・加工乳・乳飲料)では、382.3千kl(同96.1%)となり、3カ月連続で前年を下回った。

(2)「牛乳」のうち、「業務用以外」は、同99.5%、「業務用」は同87.6%、「学乳」は96.4%。

(3)はっ酵乳(乳業)は88.2千kl(同99.3%)、はっ酵乳(非乳業:8月実績)は97.1%となった。



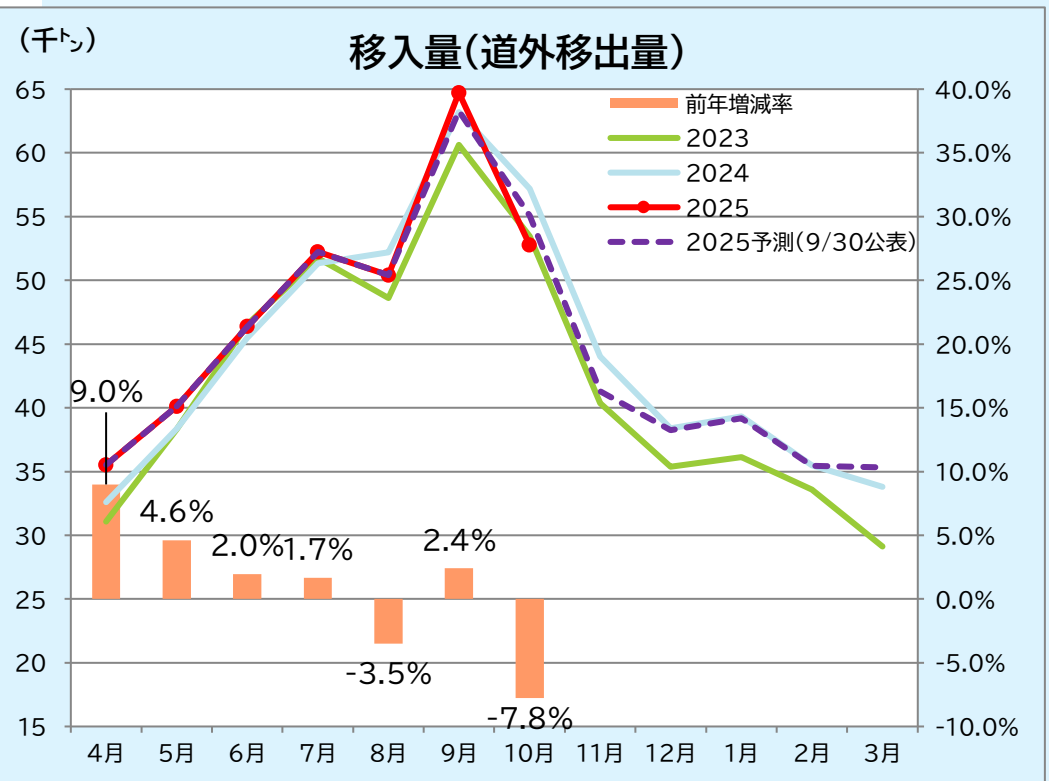
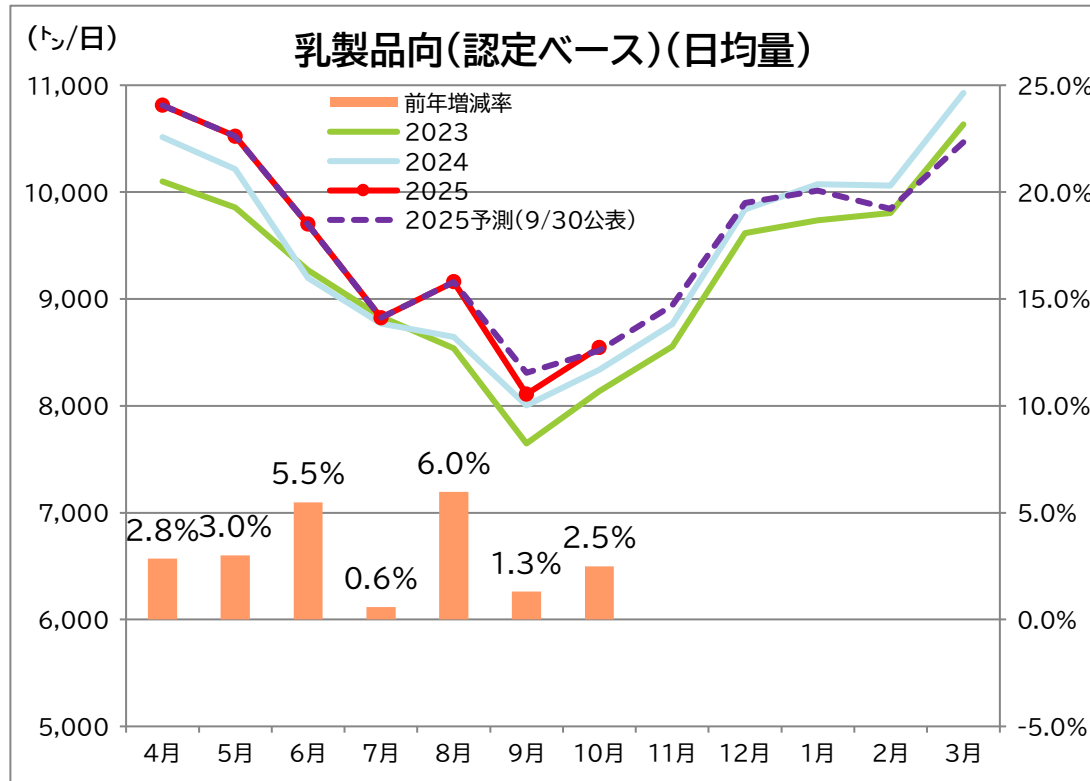
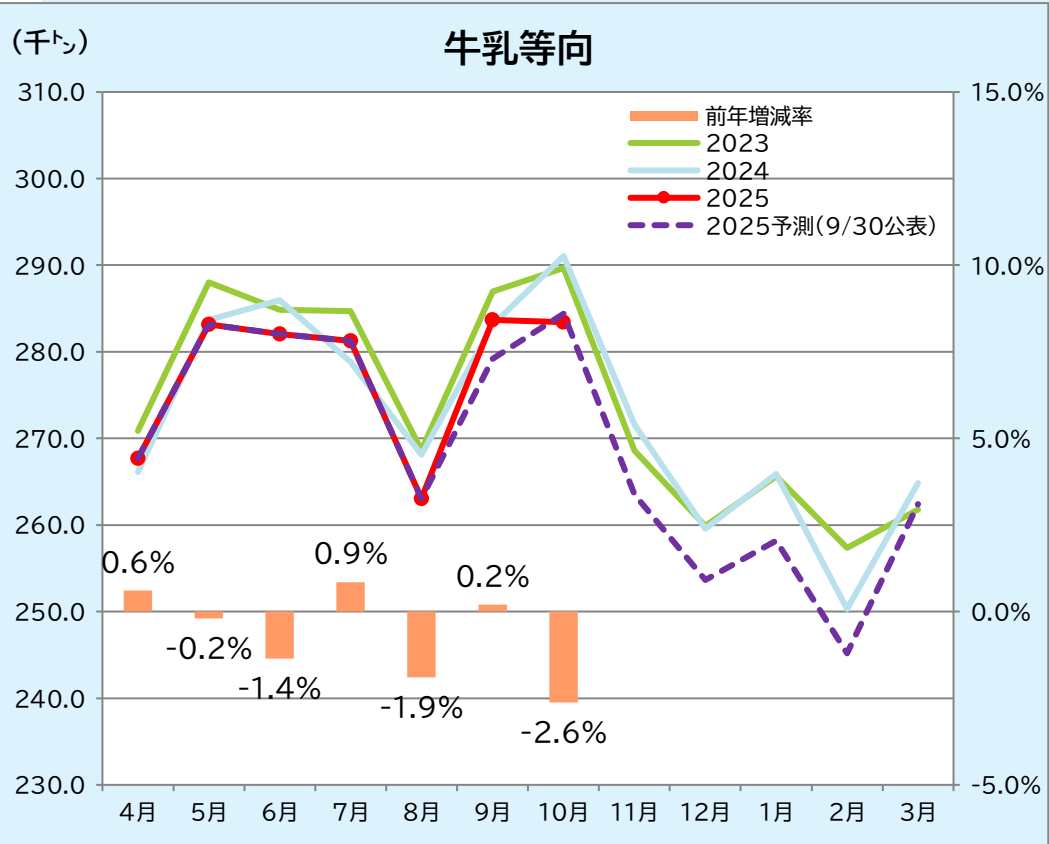
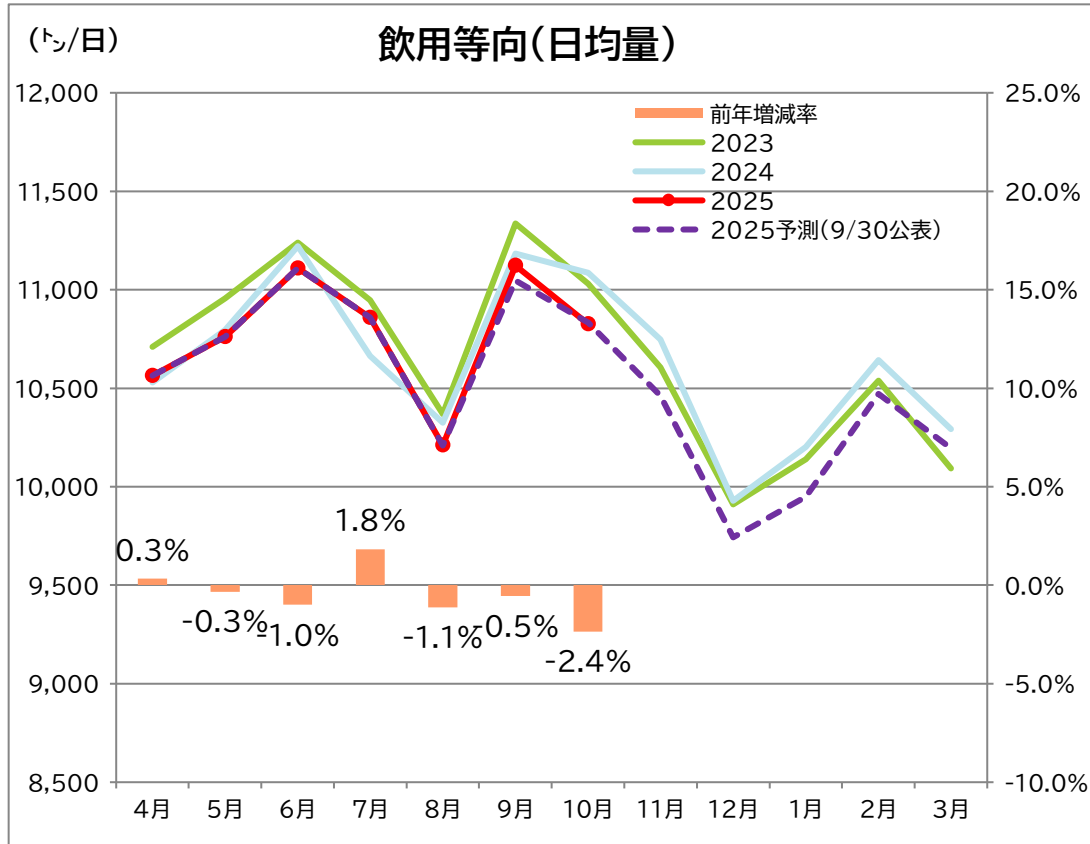
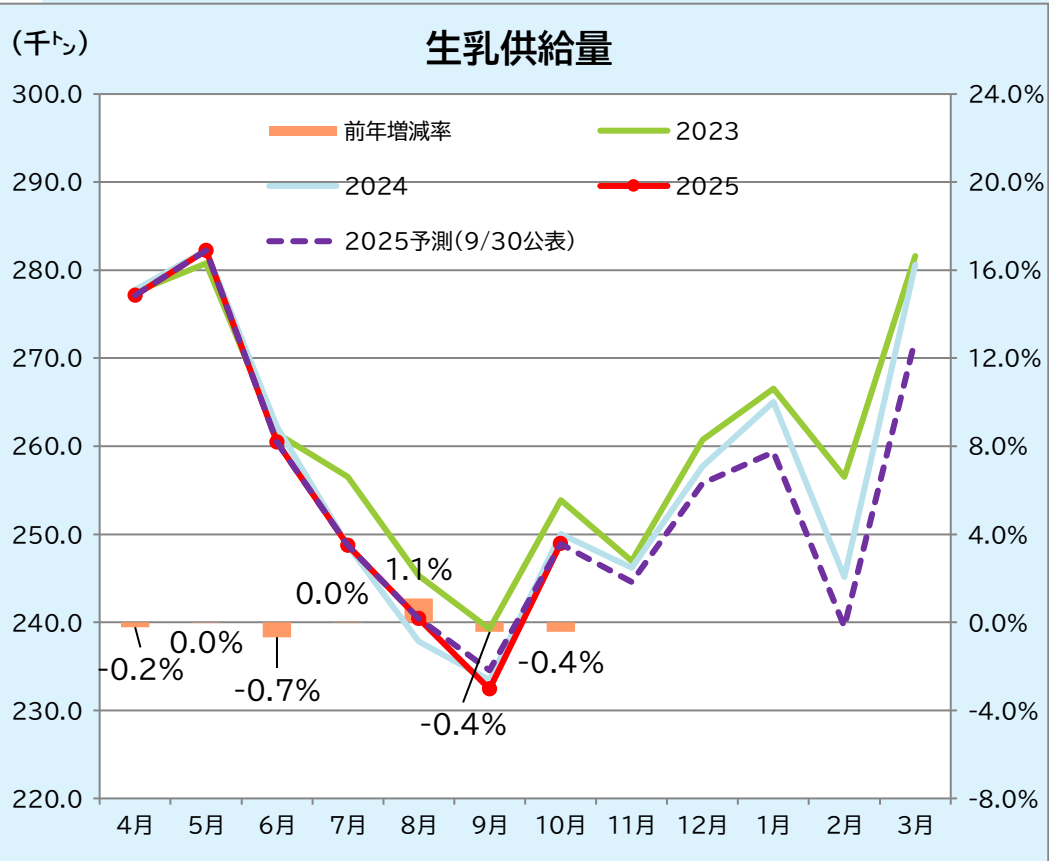
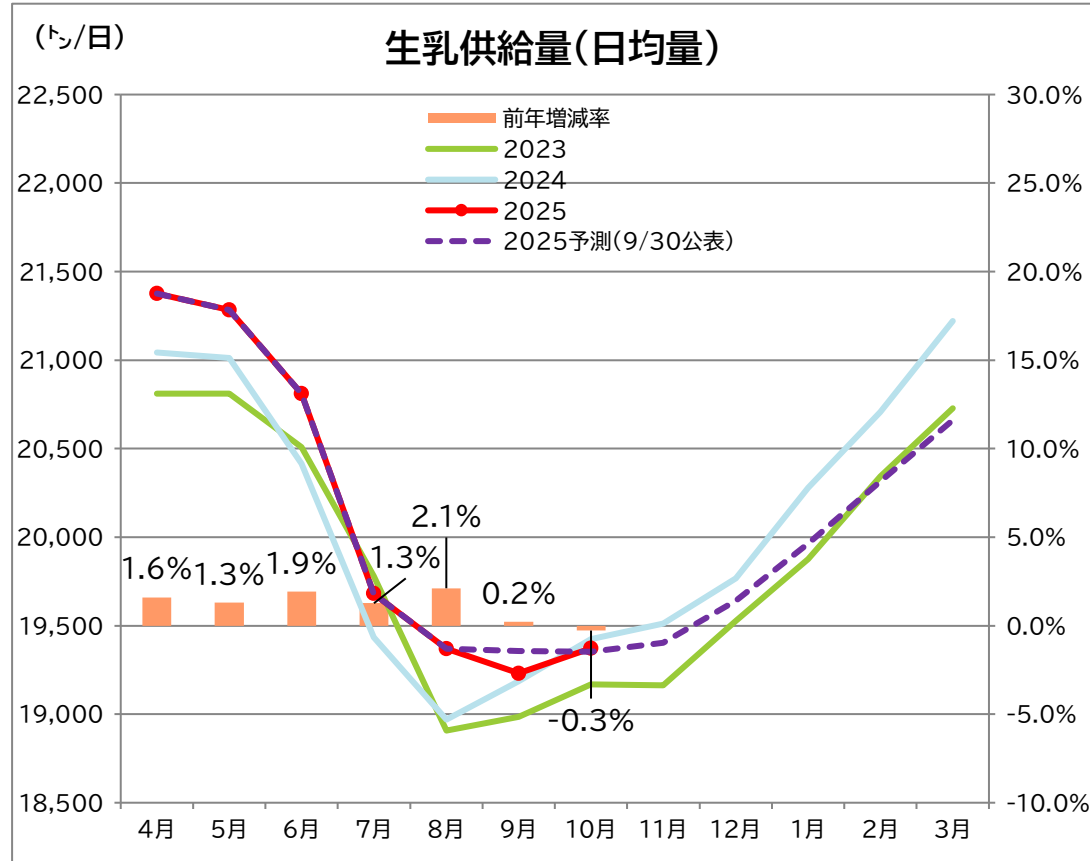


## 【用途別処理量(全国)】 ※増減率は、日均量で算出。

(1)10月の生乳供給量は600.5㍑(前年同月比99.7%)、飲用等向335.6千㍑(同97.6%)、乳製品向(認定ベース)264.9千㍑(同102.5%)。  
 (2)飲用等向が3か月連続で前年を下回り、生乳供給量も15カ月ぶりに前年を下回った結果、乳製品向は15か月連続で前年を上回った。  
 (3)9月30日に公表した予測値との比較では、生乳供給量(予測値:599.9千㍑)はやや上振れ、飲用等向(予測値:335.9千㍑)はやや下振れ、乳製品向(予測値:264.1千㍑)は下振れとなった。

## 【都府県の生乳需給】

(1)10月は、生乳供給量248.9千㍑(前年同月比99.6%)、牛乳等向283.4千㍑(同97.4%)。  
 (2)北海道からの移入量については52.8千㍑(同92.2%)と前年を下回った。  
 (3)9月30日に公表した予測値との比較では、生乳供給量(予測値:248.9千㍑)は予測並み、牛乳等向(予測値:284.4千㍑)は下振れ、移入量(予測値:55.1千㍑)も下振れとなった。



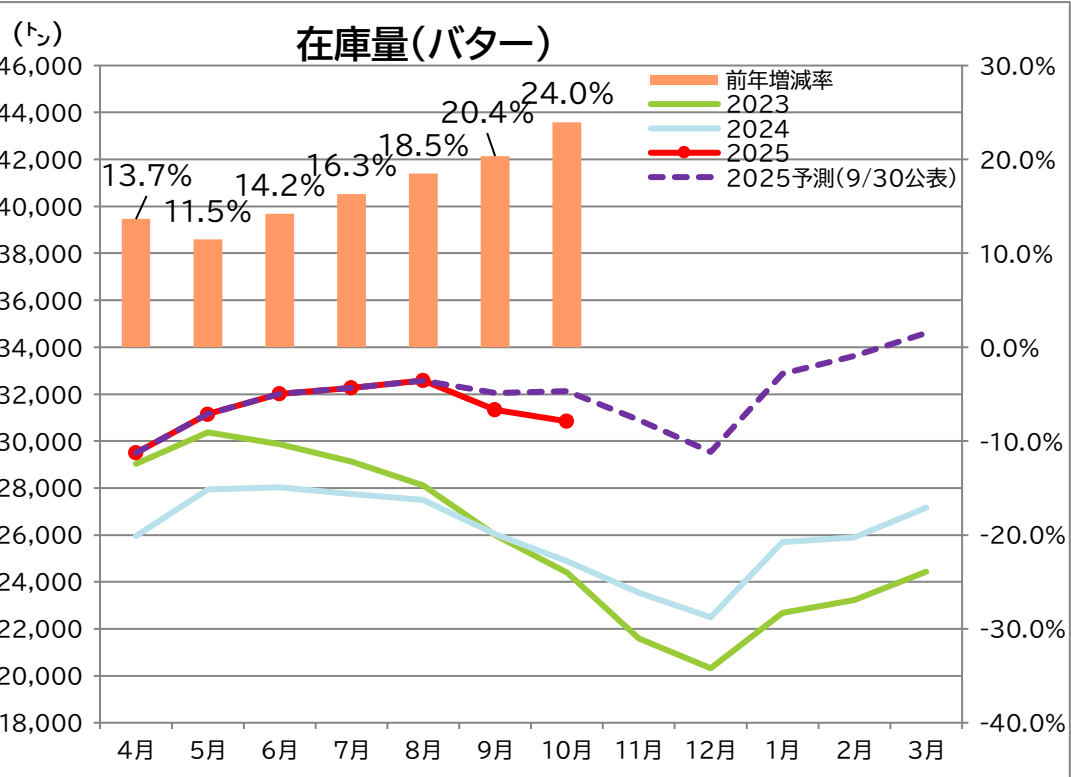
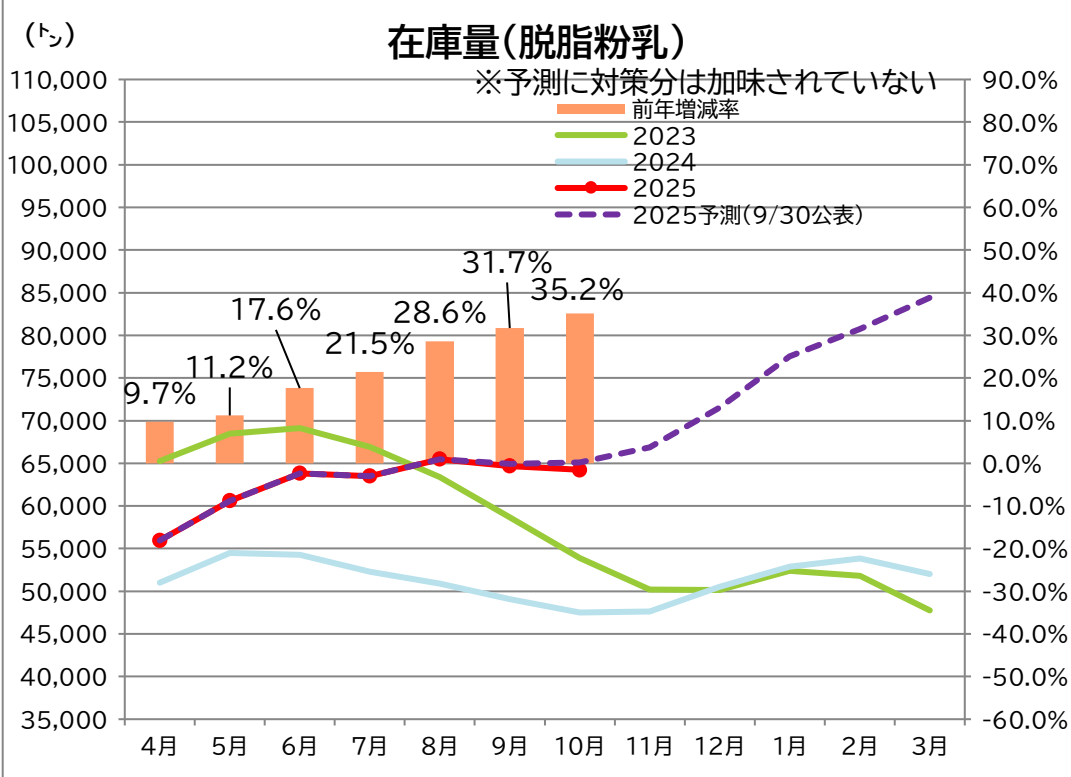
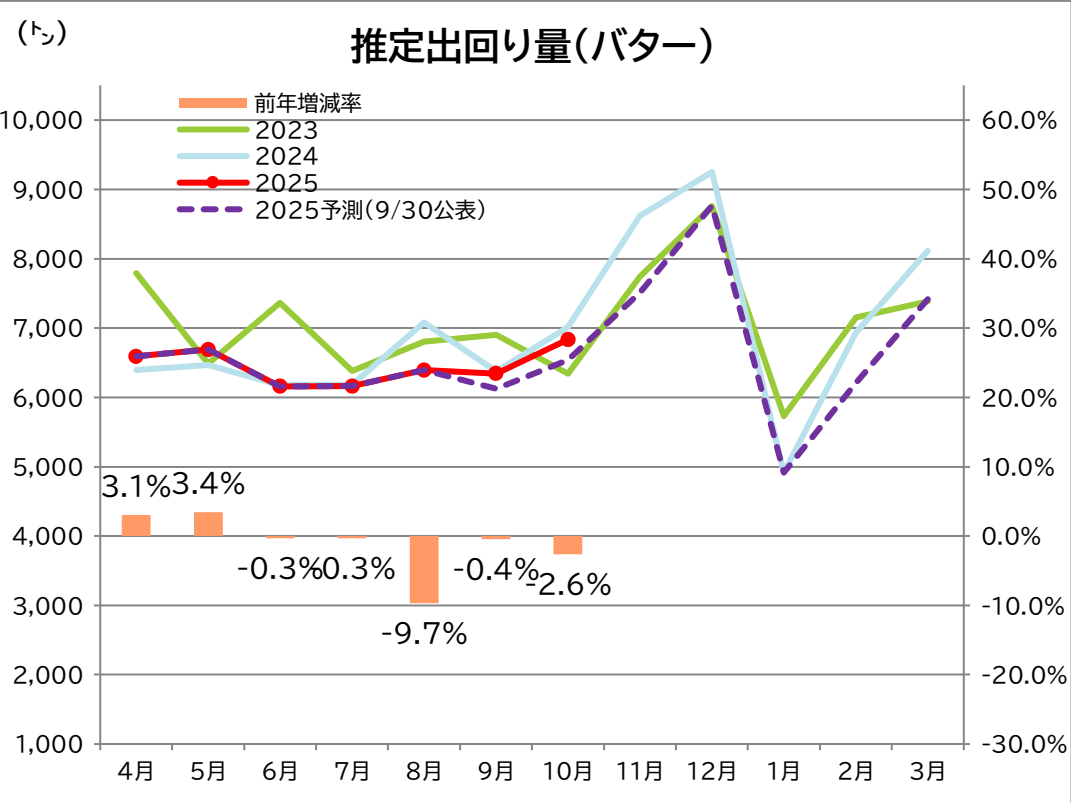
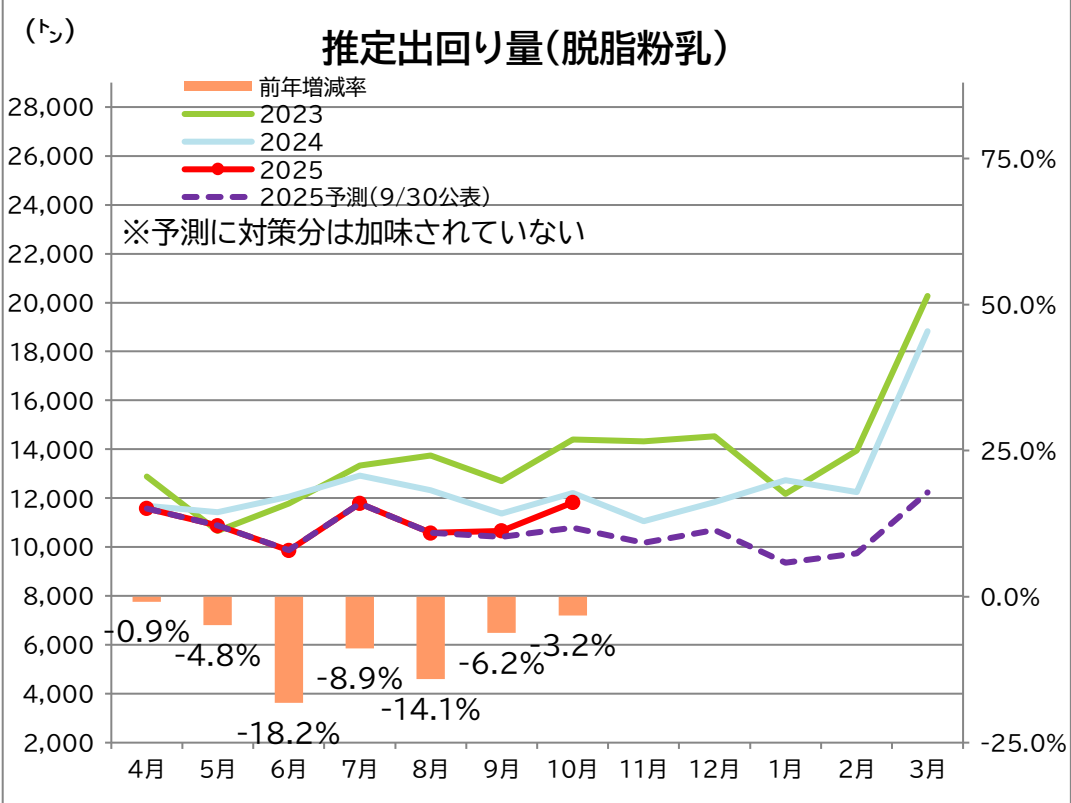
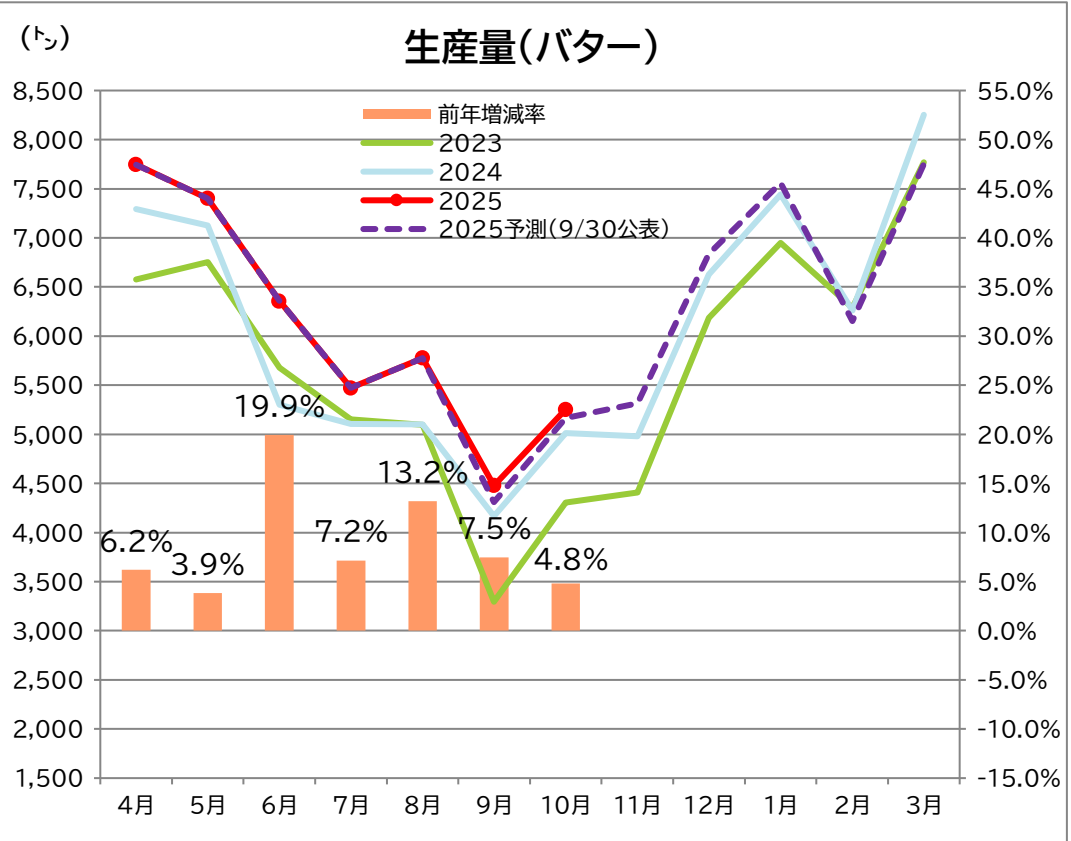
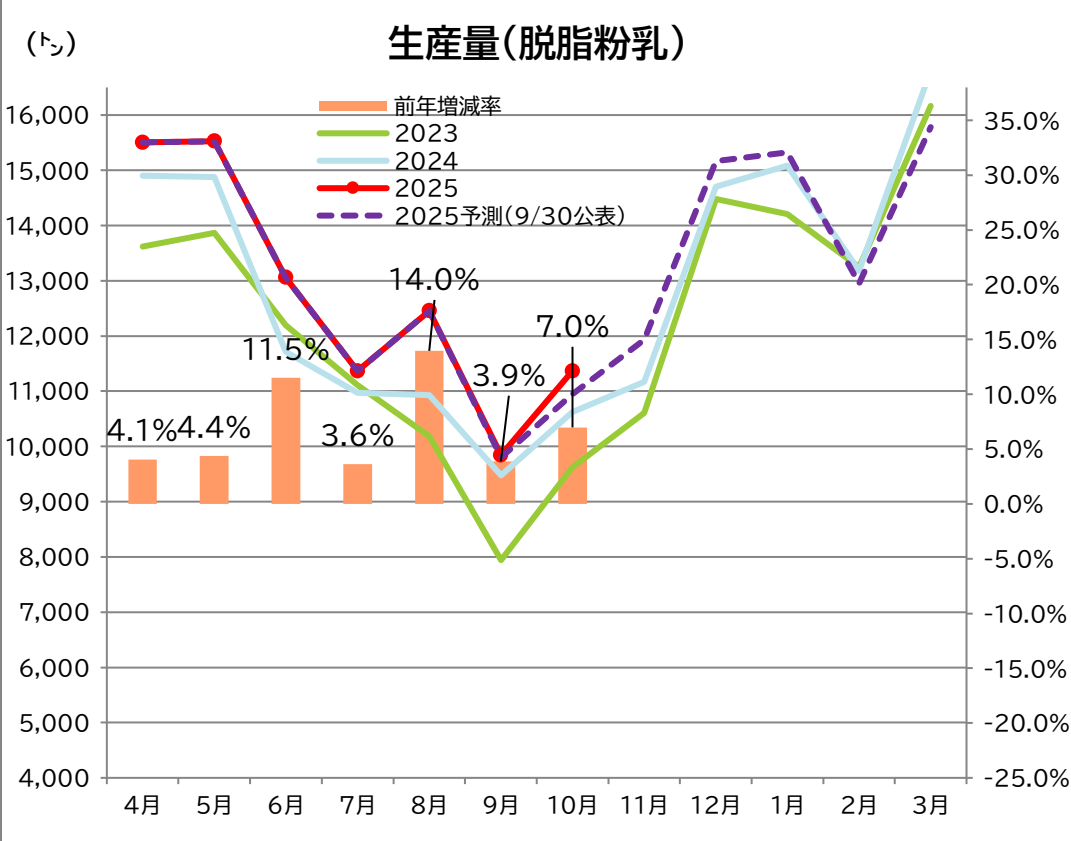
【脱脂粉乳・バターの需給】

(1)脱脂粉乳について10月の生産量は11.4千トン(前年同月107.0%)、推定出回り量は11.8千トン(同96.8%)となった。出回り量が生産量を上回り在庫量は前月から0.4千トン程度減少し、64.2千トン(同135.2%)となった。在庫量は昨年12月、約2年3カ月ぶりに前年水準を上回り、11カ月連続で前年水準超えで推移している。在庫量が6万トンを上回るのは、6カ月連続となる。

※なお、推定出回り量の実績について、前年度の実績から在庫対策を差し引いた数量との比較は107.7%。

(2)バターについて、10月の生産量は5.3千トン(同104.8%)、推定出回り量は6.8千トン(同97.4%)となった。国家貿易による輸入売渡分(約1.1千トン)も考慮すると在庫量は前月から約0.5千トン減少し30.9千トン(同124.0%)となった。在庫量は14カ月連続で前年超え。

➡脱脂粉乳とバターの需要のアンバランスが表面化するなか、飲用需要が低調に推移している。脱脂粉乳は、積み増しを避けるべく需要拡大や理解醸成活動による消費の底上げを図る必要がある。バターは、消費動向を注視し、国家貿易による対応も含めて需要に対応した安定供給に努める必要がある。



【牛乳類の販売速報(推定値):インテージSRI+】 ※量販店・コンビニ等、小売店の販売実績

(1)11月の動向(表①参照)

・販売個数は、牛乳:前年同月比99.1%、成分調整牛乳:同92.2%、加工乳:同95.2%、乳飲料:同95.4%。牛乳類全体:同98.0%

【参考】2023年11月比…牛乳:99.6%、成分調整牛乳:89.1%、加工乳:93.9%、乳飲料:88.0%(牛乳類トータル:96.9%)

(2)直近の週次動向(表②・グラフ参照)

・直近(11/24)の販売個数は、牛乳:前年同期比99.1%、成分調整牛乳:同90.8%、加工乳:同94.5%、乳飲料:同96.7%。牛乳類トータルでは同98.1%

出典 (株)インテージSRI+週データ。販売本数、販売単価(税抜)については推定値。データ転用はご遠慮下さい。

【表① 牛乳類の月別販売動向】

単位:千個、円

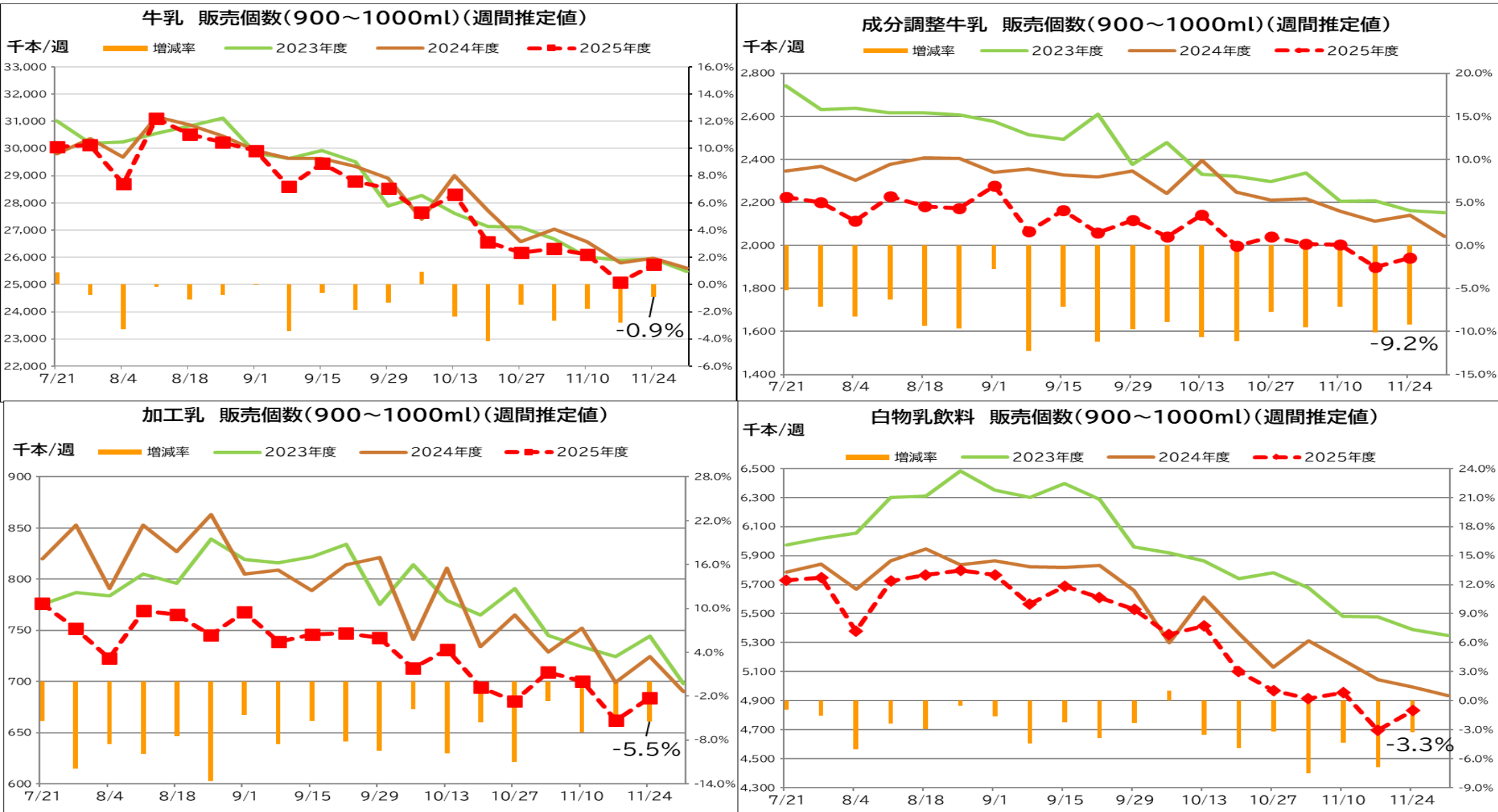
品目	区分	2025/6-	2025/7-	2025/8-	2025/9-	2025/10-	2025/11-	2025/11- 2022/10価格差	2025/11- 2023/3価格差	2025/11- 2023/7価格差	2025/11- 2025/7価格差
トータル	販売個数	157,377	167,382	172,469	161,532	155,995	144,208	42.5	27.4	25.6	9.3
	販売個数前年比	96.9	99.1	98.4	97.3	96.8	98.0				
	販売単価	216.0	216.3	225.3	226.0	226.0	225.6				
牛乳	販売個数	121,902	129,515	134,237	124,875	120,635	111,759	44.6	28.3	27.5	9.7
	販売個数前年比	98.0	100.0	99.2	98.0	97.6	99.1				
	販売単価	224.6	225.1	234.2	235.3	235.3	234.8				
成分調整牛乳	販売個数	9,182	9,676	9,690	9,194	9,035	8,527	43.0	27.4	23.8	10.1
	販売個数前年比	93.2	94.3	92.4	91.6	89.2	92.2				
	販売単価	206.2	206.1	217.3	218.2	216.9	216.2				
加工乳	販売個数	3,119	3,335	3,333	3,215	3,127	2,975	36.1	26.4	16.2	4.7
	販売個数前年比	90.1	91.2	90.5	91.9	92.7	95.2				
	販売単価	223.7	223.3	233.4	233.5	231.5	228.0				
乳飲料	販売個数	23,173	24,855	25,209	24,249	23,197	20,948	30.4	19.8	16.1	6.3
	販売個数前年比	94.0	97.6	97.8	96.7	96.7	95.4				
	販売単価	173.6	173.6	179.8	180.3	180.8	179.9				

速報値

【表② 牛乳類の販売動向(直近の週次動向)】

品目	区分	10.6-	10.13-	10.20-	10.27-	11.3-	11.10-	11.17-	11.24-	25.11.24- 22.10.24 価格差	25.11.24- 23.3.20 価格差	25.11.24- 23.7.24 価格差	25.11.24- 25.7.21 価格差
トータル	販売個数	35,771	36,612	34,358	33,854	33,947	33,767	32,336	33,196	42.5	27.6	25.2	9.2
	販売個数前年比	100.2	96.8	95.3	97.6	96.2	97.4	96.1	98.1				
	販売単価	226.3	226.0	225.8	225.7	225.9	225.4	226.1	225.7				
牛乳	販売個数	27,661	28,323	26,565	26,165	26,316	26,109	25,079	25,737	44.6	28.3	27.1	9.6
	販売個数前年比	100.9	97.6	95.8	98.5	97.3	98.2	97.2	99.1				
	販売単価	235.6	235.2	235.1	235.0	235.1	234.6	235.3	234.9				
成分調整牛乳	販売個数	2,042	2,142	1,999	2,040	2,008	2,004	1,900	1,943	43.1	28.3	23.4	10.2
	販売個数前年比	91.1	89.4	88.9	92.3	90.5	92.9	89.9	90.8				
	販売単価	217.8	216.8	216.8	215.1	216.7	216.0	217.6	216.4				
加工乳	販売個数	713	731	694	681	709	700	662	684	34.7	24.8	14.8	4.8
	販売個数前年比	96.2	90.1	94.5	89.0	97.3	93.1	94.6	94.5				
	販売単価	231.5	232.5	231.0	229.7	227.9	227.6	228.8	227.8				
乳飲料	販売個数	5,355	5,416	5,100	4,968	4,914	4,953	4,695	4,831	30.1	20.3	15.6	6.6
	販売個数前年比	101.0	96.5	95.1	96.8	92.5	95.6	93.1	96.7				
	販売単価	181.1	180.7	180.5	180.2	180.2	180.0	179.9	179.8				

【グラフ 各品目直近の販売本数推移】

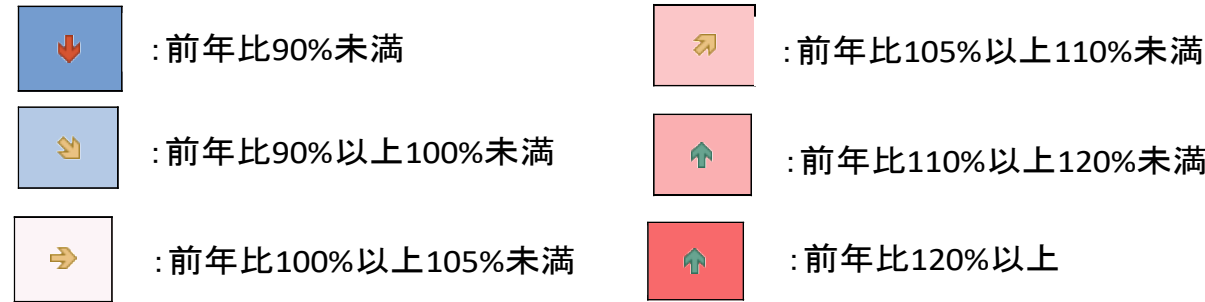




【ヨーグルト類の販売速報(推定値):インテージSRI+】  
(1)直近の週次動向(表⑤参照)  
直近(11/24週)の販売個数は、ドリンクタイプ(90～250ml):前年同期比100%以上、個食タイプ(70～130ml):同90%以上、大容量タイプ (350～500ml):同100%以上。はっ酵乳全体としては、前年を下回った。(3品目合計販売個数は前年同期比90%以上、合計販売容量は同90%以上)。  
(2)販売個数について、前週(11/17週)との比較では、3品目いずれも増加した。  
※出典 (株)インテージSRI+週データ。販売個数については推定値。データ転用はご遠慮下さい。

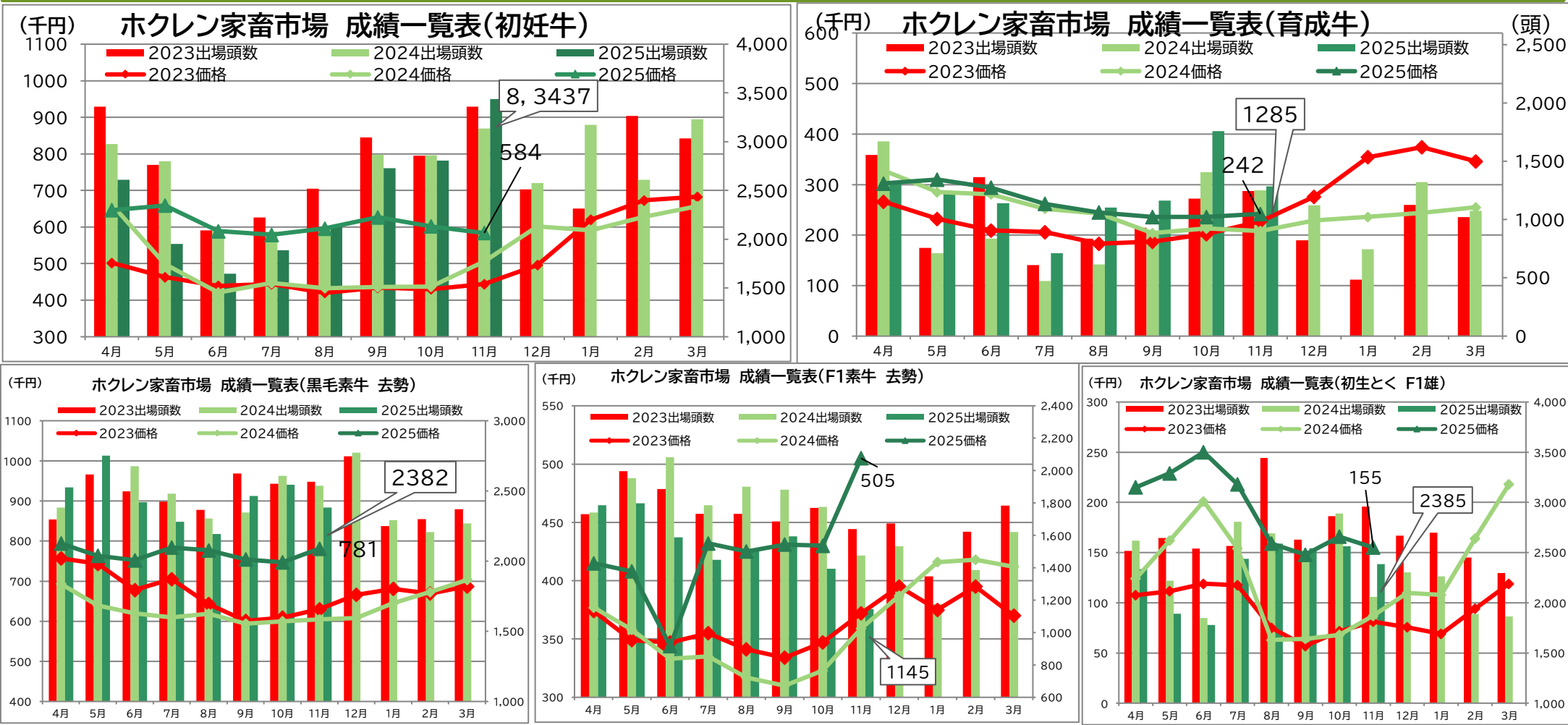
【表⑤ ヨーグルト類の販売動向】

品目	10.6-	10.13-	10.20-	10.27-	11.3-	11.10-	11.17-	11.24-
ドリンクタイプ	↘	↓	↘	➡	↘	➡	➡	➡
個食タイプ	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘
大容量タイプ	➡	↘	↘	↘	↘	↘	↘	➡



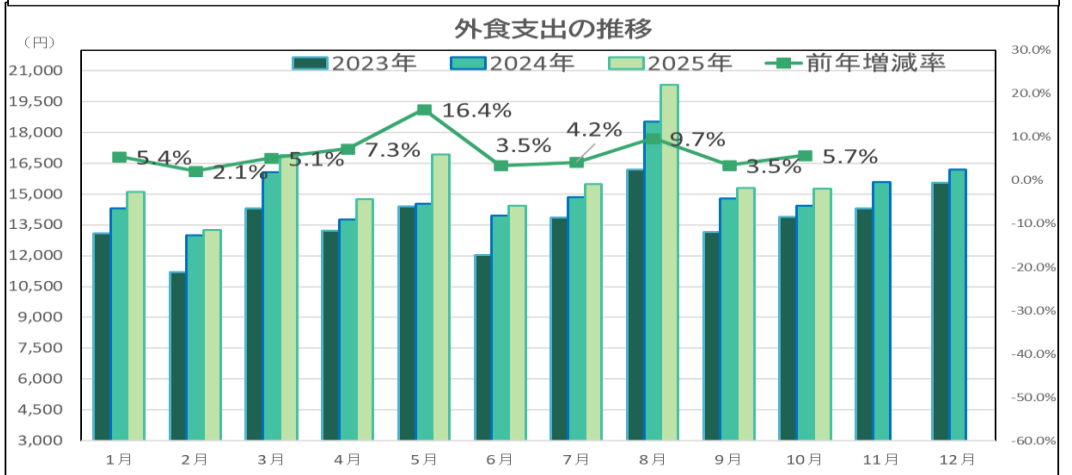
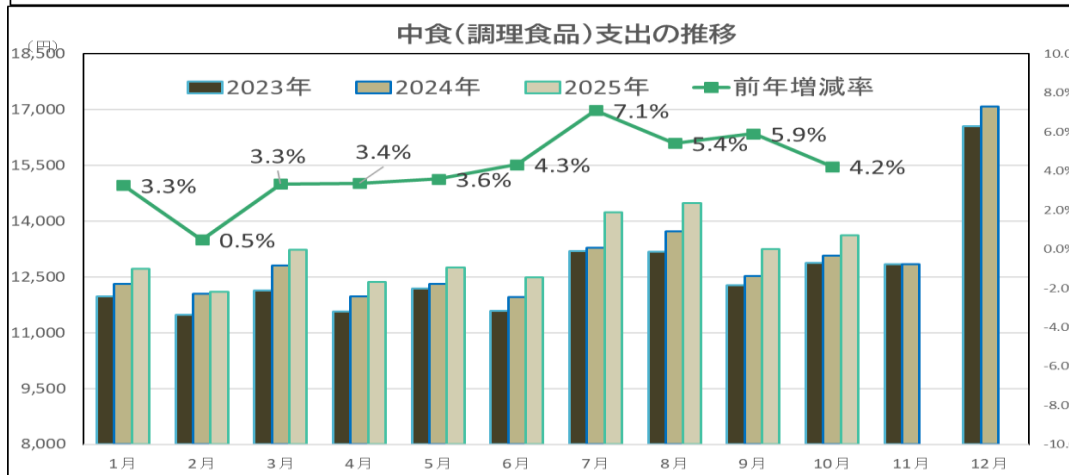
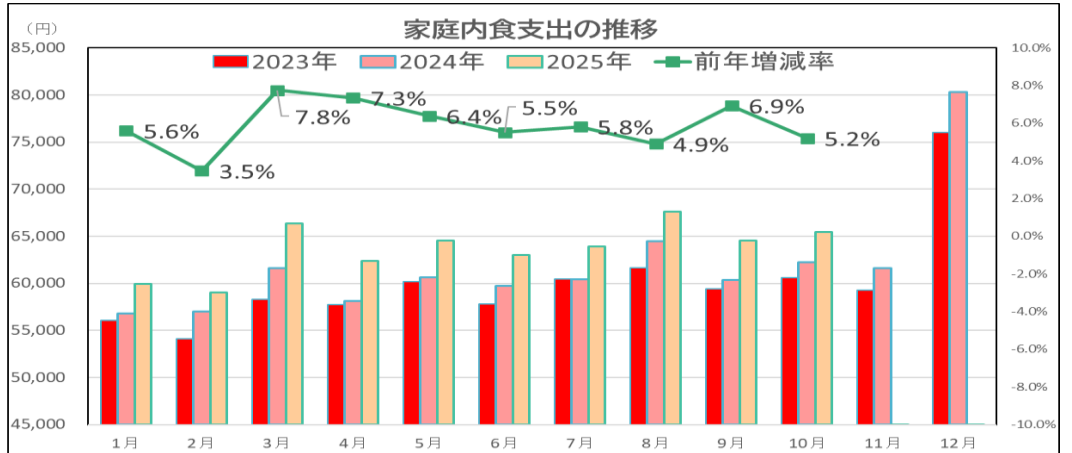
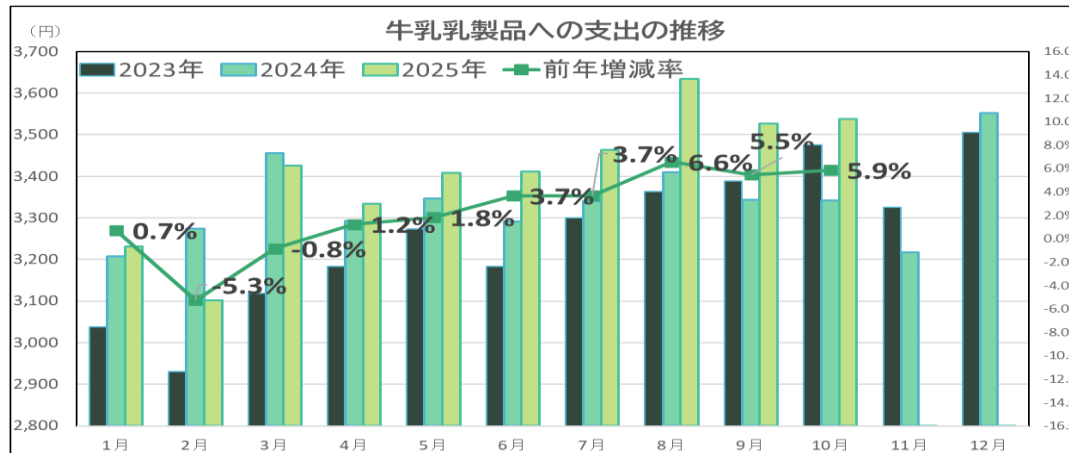
※なお、下地の色が濃いほうが、上記範囲内で前年との増減差が大きいことを表す。

【家畜販売価格動向(税込)】  
(1)11月の家畜販売価格動向について、ホクレン家畜市場集計によると、初妊牛価格は584千円(前年同期比115.4%)、育成牛価格は242千円(同116.3%)、和牛素牛(去勢)価格781千円(同129.1%)、F1素牛(去勢)価格は505千円(同140.7%)。初妊牛は3か月ぶりに50万円台に下落、育成牛は6力連続で20万円台。ホル初生(雄)価格は52千円(同288.9%)と、3か月連続で前年比2倍の水準を上回った(グラフ無し)。  
(2)出場頭数(出回り頭数)は、初妊牛:同109.6%、育成牛:同102.7%、F1初生(雄):同115.8%、和牛素牛(去勢):同93.9%、F1素牛(去勢):同77.6%。  
※ホクレン家畜市場集計表 速報値(<https://www.kachiku.hokuren.or.jp/Downloadresult.aspx>)

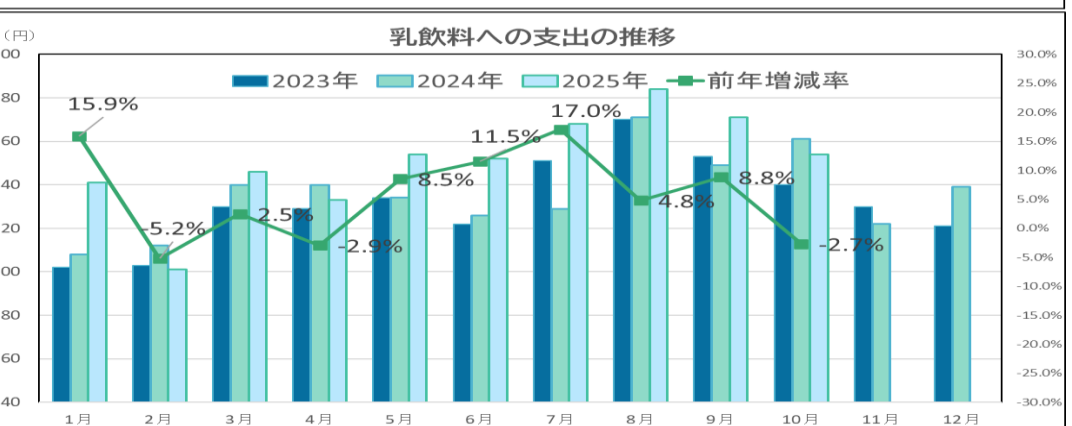
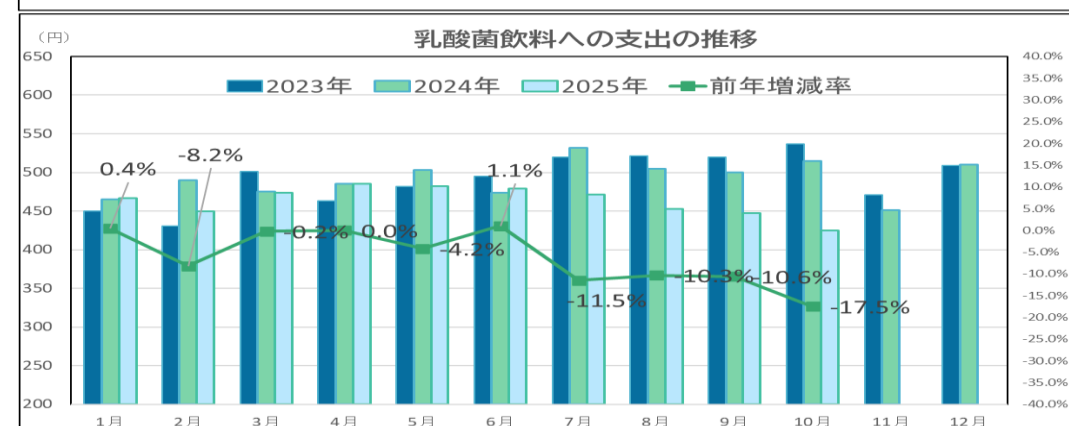
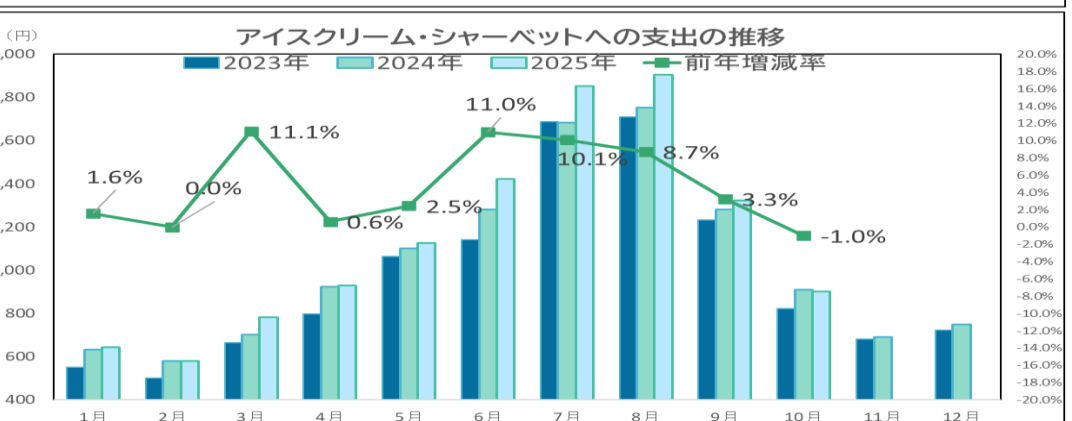
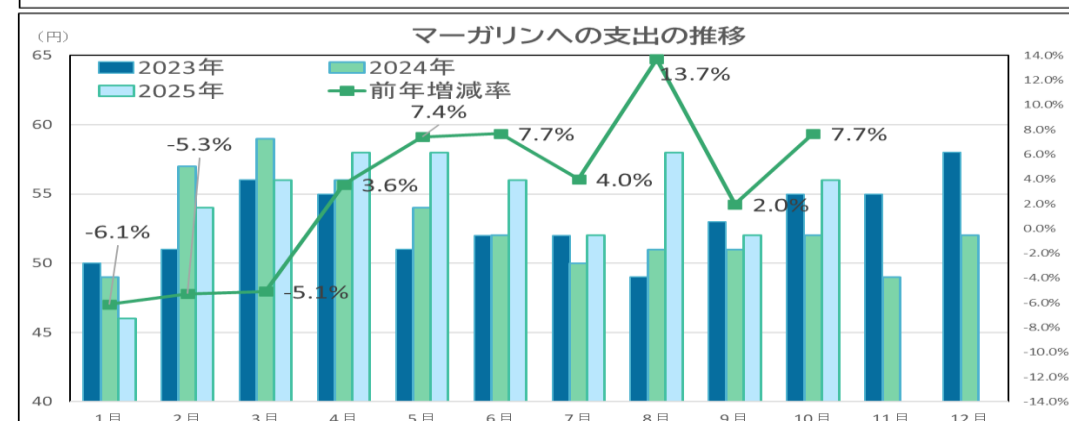
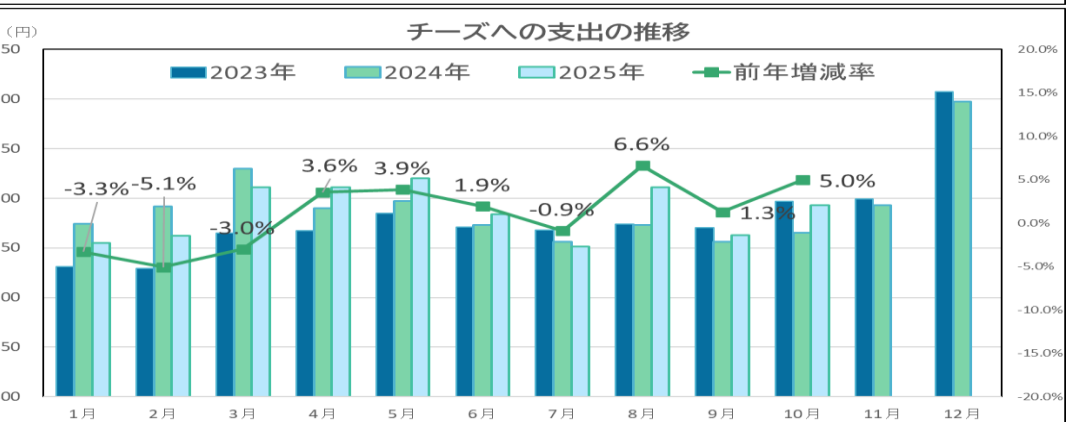
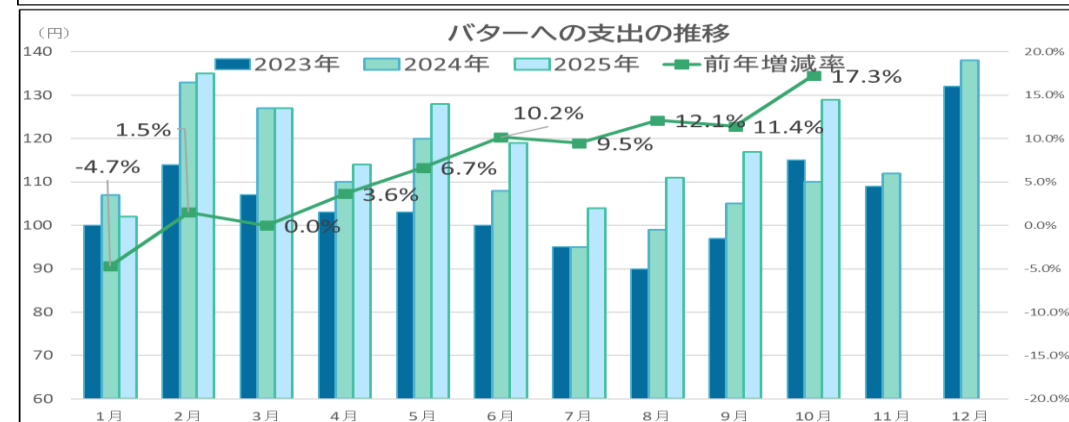
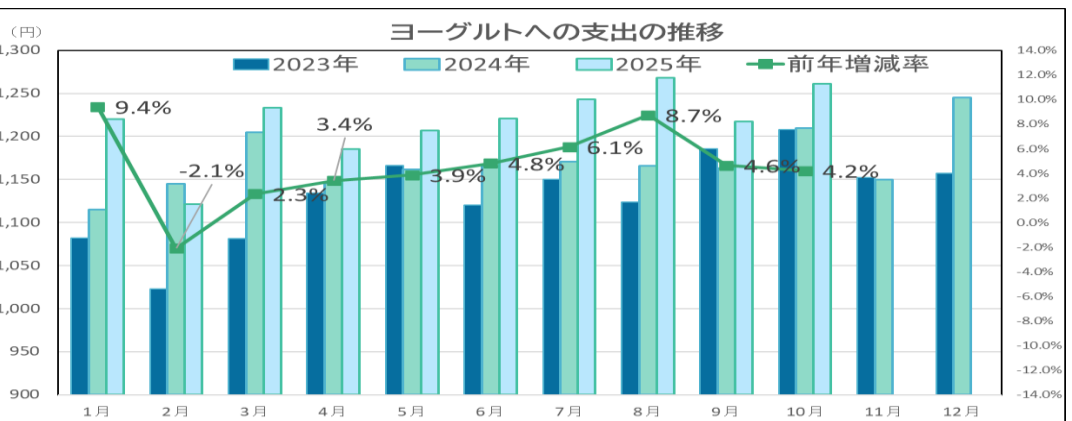
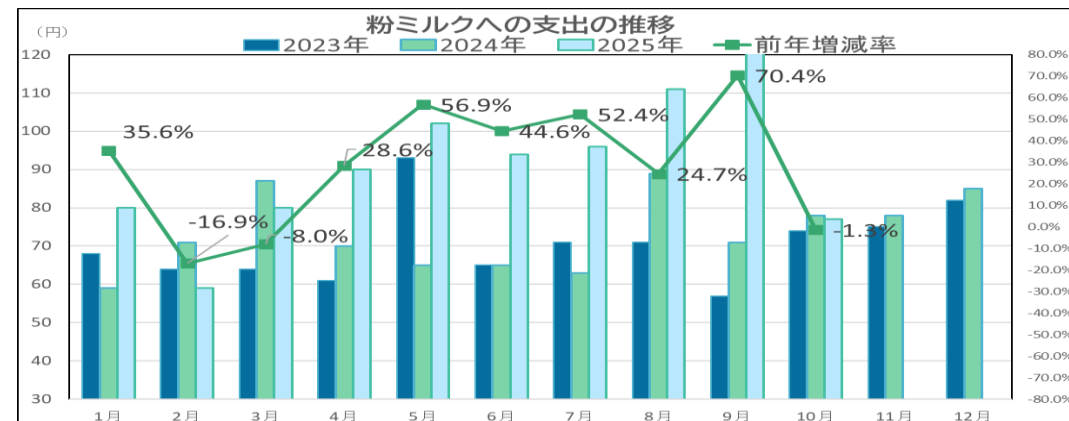


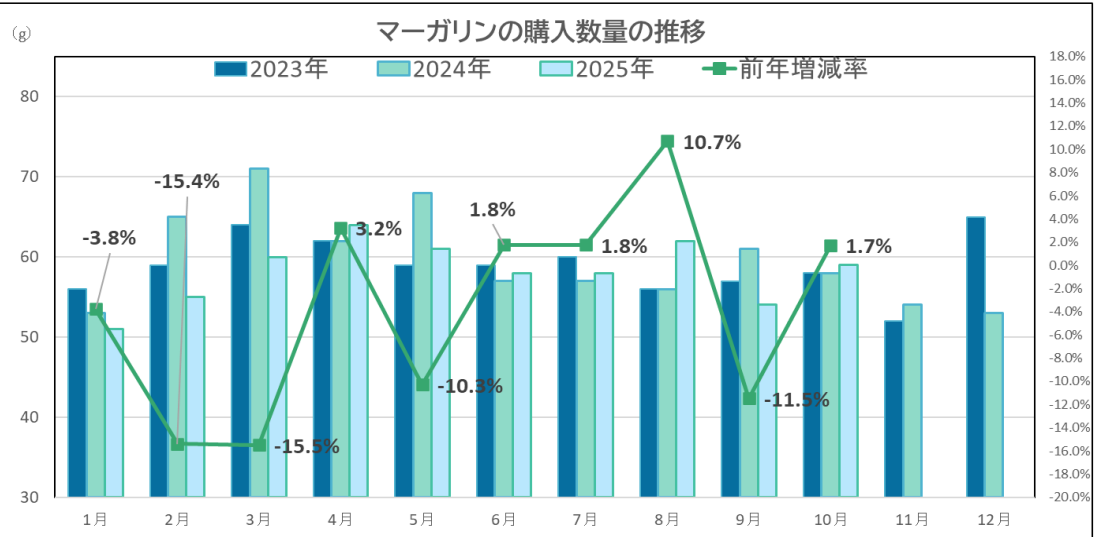
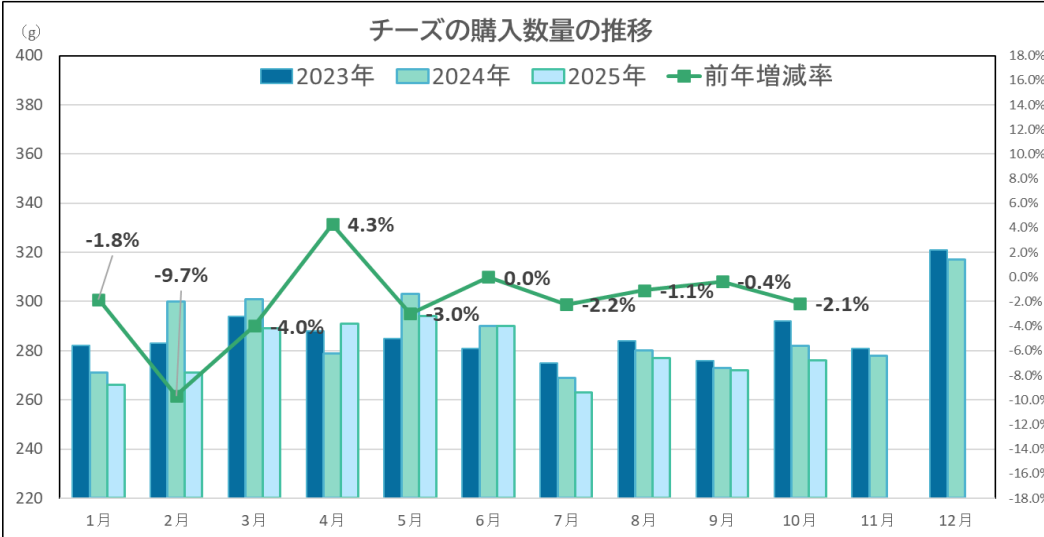
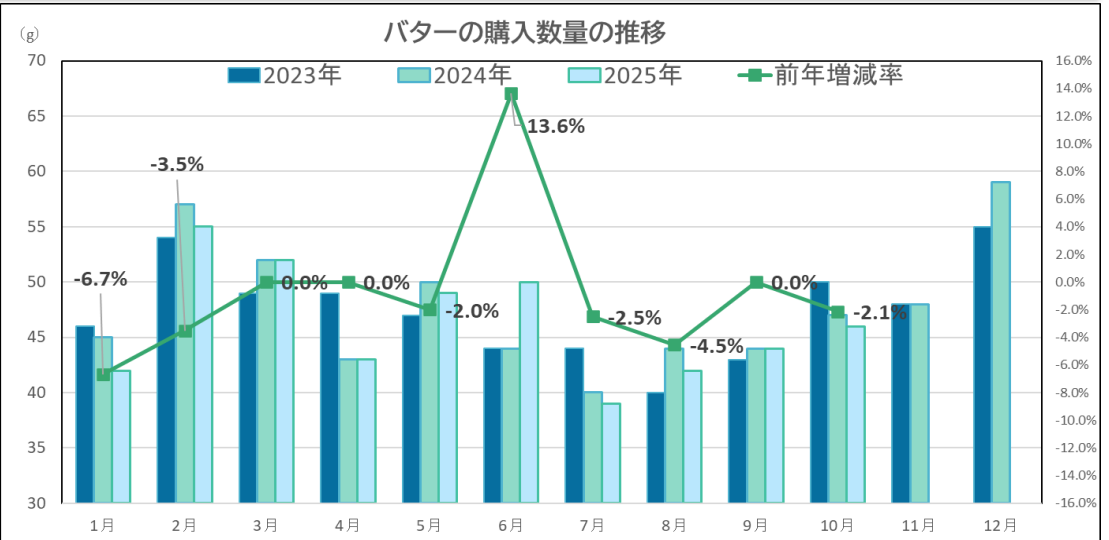
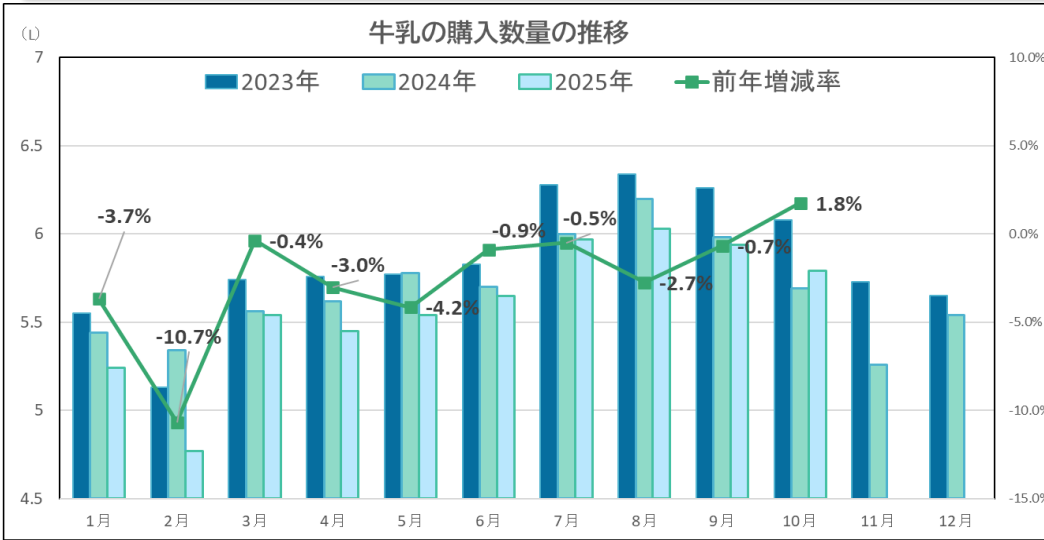
【家計支出の動向】

- (1)10月の支出額前年比について、外食105.7%、中食104.2%、内食105.2%といずれも前年を上回り、食料全体への支出額は105.2%となった。
- (2)牛乳乳製品の支出額も前年比105.9%(うち牛乳107.4%、乳製品104.9%)と6カ月連続で前年を上回った。
- (3)なお、購入量は、牛乳101.8%(1世帯当たり5.8㍑)と17か月ぶりに前年超え。バターは2カ月ぶりに前年割れ、チーズは4カ月連続で前年割れとなった。
- ※総務省家計調査(二人以上の世帯。家庭内食は、食料-調理食品-外食で独自に算出)



【参考:その他品目支出の動向】



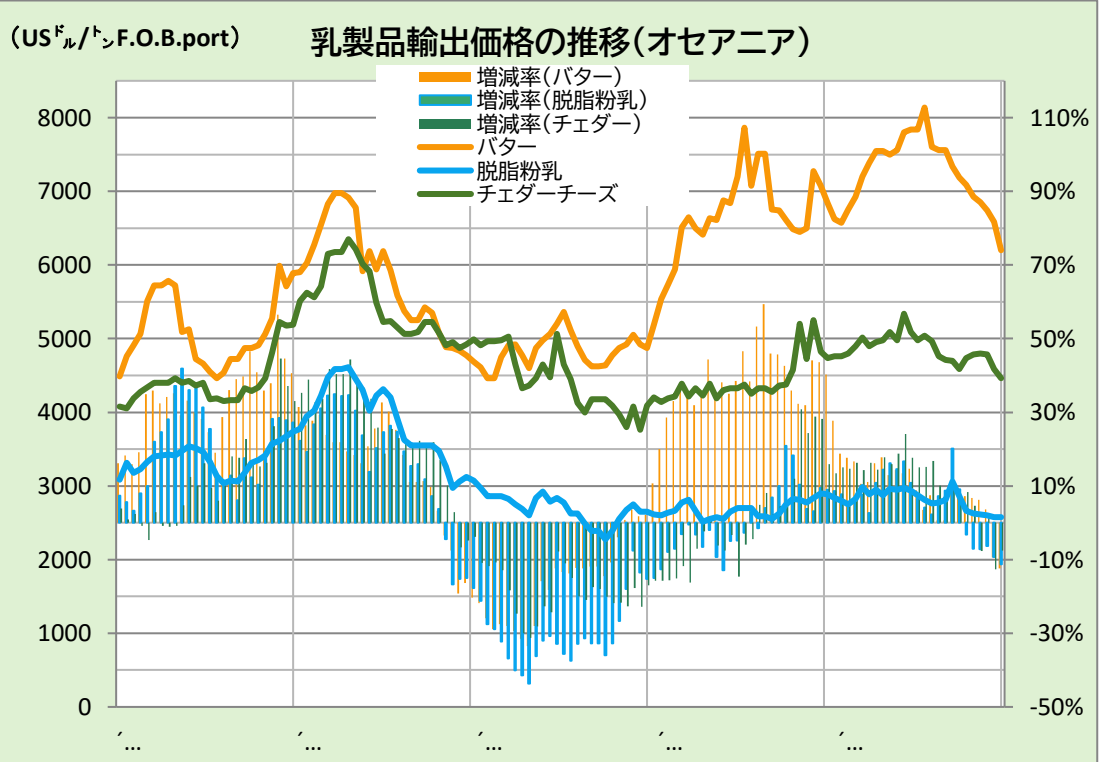
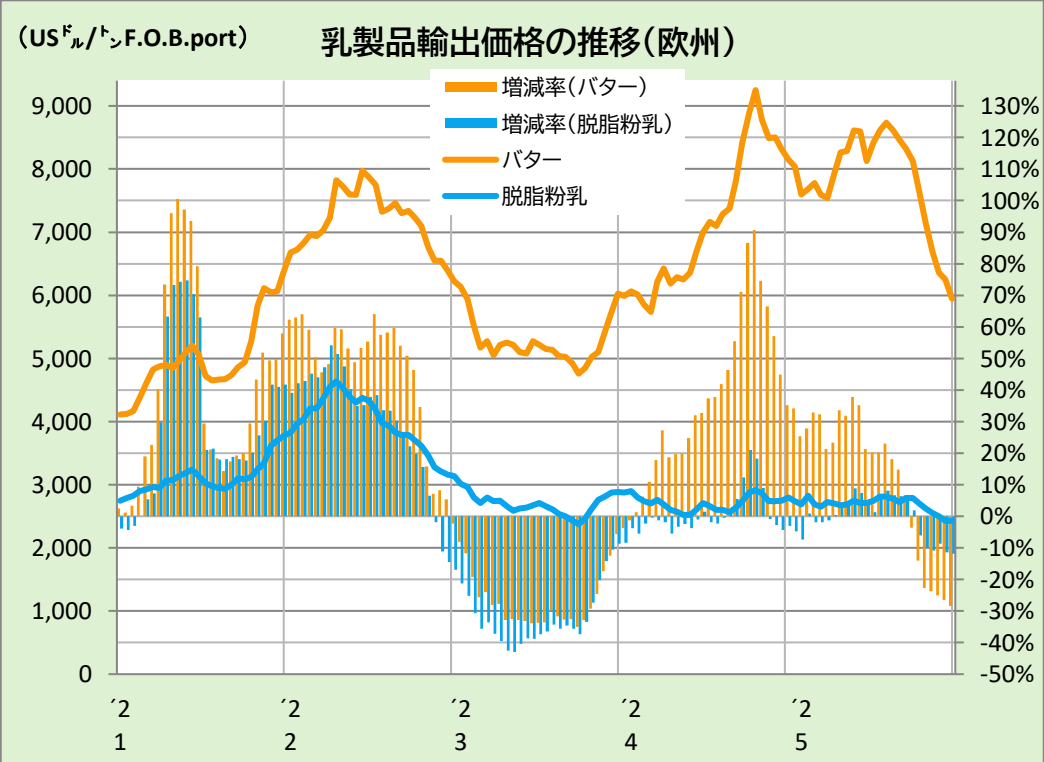


## 【乳製品輸出価格の動向】

(1)直近の乳製品国際相場について(11月下旬)

- ・欧州:脱脂粉乳2,425ドル/トン、バター5,950ドル/トン中心。バターは減少幅の拡大が続いている。
- ・オセアニア:脱脂粉乳2,575ドル/トン、バター6,200ドル/トン、チェダーチーズは4463ドル/トン中心

※出典:米国農務省(USDA)



※「2025年度国産牛乳乳製品の需要拡大等事業 独立行政法人農畜産業振興機構 後援」